だい かい こく さい いく せい かい れん めい せ かい かい ぎ

第14回国際育成会連盟世界会議メキシコ大会



ともに生きる

未来を創るう!

- 公平な世界をめざして -









だい かい こく さい いく せい かい れん めい せ かい かい ぎ

第14回国際育成会連盟世界会議メキシコ大会



ともに生きる

み らい つく

未来を創るう!

- 公平な世界をめざして ―





助成



日本財団 The Nippon Foundation

1. はじめに						
世界に翔け!		原		治治	•••	4
知的障害者のおかれている現状! · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	割	島	宏	克	•••	6
国際育成会連盟の組織と方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	長	瀬		修		8
インクルージョン社会にむけて 親の会の役割	たけ	居		光		10
		<i>,</i> –		, ,		. •
2. 大会プログラム						14
3. 会議報告						
1) 現地における大会速報						
メキシコ大会会議短信(第1報)11月7日 プレ会議						
家族と本人の力を重視しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						24
メキシコ大会会議短信(第2報)11月8日 本会議						
ことば・ことば・ことば・・・ · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						28
メキシコ大会会議短信(第3報)11月9日本会議						20
教育におけるインクルージョン						32
2) 日本からの発表						52
11月7日 分科会						
マラ カ イ ロ	なが	瀬		修		36
「家族が家族でありつづけるために」			真		•••	38
がつ か だい ぶんかかい	川	小刀	具丁	 _	•••	30
11 月 8 白 第 19 分科会 セルフ・アドボカシー ステージ新聞について	ح .ا.	いけ	<i>3</i> -	*		40
ステージ新闻に ブバ (\]/	池	夫	布	•••	40
T 月 8 日 第 19 分科会 ゼルノ・アトホカシー # **********************************	あか	ŧ.	ゆう	<u>z</u>		4.0
ぜんたいかいほうこく	亦	木	祐	子	•••	42
3) 全体会報告 開 会 式	もり		しげ	ŧ.		
開 会 式	森		繁	樹	•••	48
# to to the total	చ్చ	ť	よし	え		
パナマ大統領夫人の講演から考えたこと	古	家	好	恵	•••	50
4) 分科会報告 - が2 か かいぎ しゅうきょう やくわり						
11月7日 プレ会議 宗教のはたす役割 ************************************						
共生(インクルージョン)を進めるために、宗教団体が果たす役割!	くす		とも	4.6		
がつ か かいぎ しゃかい そくしん こうとうきょう	植いく	やくわ	智り	文	•••	52
11月7日 プレ会議 社会へのインクルージョン促進における高等教	育の			7 FT.		
^{ちゅうとうきょういく} いこう 中等のインクルーシヴな教育について ····································	术	下		剛	•••	53
11月8日 第8分科会 セルフ・アドボケート支援の実践的戦略	± n		1 1.5	-		
インクルーシヴな地域の構築・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	森		繁	樹	•••	55
11月9日 第24・34分科会						
複雑なニーズのある人たちを支える						
ー自己決定の支援と代替コミュニケーション手段の意味するところ						
	あり	≢ ≡	やす 計	Ž		57

11 月 9 日 第 25 分科会 脱施設と共生社会の構築の方策						
「インクルージョンはすべての ^Č た」·······	小里	。 予澤	秀	ڔ		59
11 月 9 白 第 25 分科会						
脱施設化とインクルーシヴ・コミュニティ作りの戦略	苦	かわ J	かま	3り		61
11月9日 第25・40分科会						
************************************	なか		真	宏		63
5) 交流会報告						
がた。	なか	ばやし	重	祐		66
日本メキシコ交流会! ····································	-	藤	± ĕ	が浩		68
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
	長	瀬		修		70
4. 本人参加						
1)世界会議における本人の役割						
世界会議における本人の役割の変遷	花	崎	<u>#</u> =	学		71
2)日本からの参加者の感想						
メキシコ大会をおえて	たで館	森森	ひさ	がき		74
メキシコ世界大会 ····································	みや宮	もと本	佳洁	上		75
メキシコ世界大会に参加して ····································	<u>дэ</u>	塚	身 ·	太		76
ハプニング続出の8日間	野	みや宮		幸		78
ポスターセッションでの本人参加	たか	橋		かおり		79
下宿屋からの4人での体験記	かわ 	瀬		. 悦		82
メキシコで織りつながった友好とさをりの思い	城		まと			88
5. 参加者の声						
さらに進む本人意思の確認と尊重	湯	淡	英	史		90
メキシコ大会エピソード集						
6. サービスセンターの機能						
インフォメーションセンターの機能 ····································	袖	* ± Ш	啓	予		96
7. まとめ						
歴史的な歩みの中で	松松	友		了	•••	98
t N D N L			• • • • •		'	100
資料リスト						
メキシコ大会会場において収集した資料のリスト						104

世界に翔け!

せんにほんて いくせいかい りじちょう ふじ わら おさむ 全日本手をつなぐ育成会 理事長 藤 原 治

2006年11月6日から13日にかけて国際では、11月6日から13日にかけて国際では、11月6日から13日にかけて国際では、11月1日からは、11月1日からは、11月1日のでは、11月日のでは、11月日のでは、11月日

bたし こころ のこ 私の心に残ったことはメキシコ大統 領 夫 まい だいとうりょう ふきい しゅっせき 妻とパナマ大統領 夫妻の出席でした。そし て4人の登場には会場から熱狂的な拍手 を歓声が上がったことです。メキシコ大統 ワょゥ 領のあいさつではメキシコが国連の障害者 の権利条約の提案国であり"障害者福祉に たいへんかんしん ふか みずか せいさく きほん 大変関心が深く、自らの政策の基本である" と述べられました。パナマ大統領にはびっ くりしました。"知的 障 害者の親である"と じぶん (t の) の から述べられ "私は大統領になる まぇ いくせいかいうんどう さんか 前から育成会運動に参加していた"と。そし て夫人はオープニングの基調講演をされ **貧困の撲滅と社会からの排除への挑戦こそ しょうがいしゃもんだい じゅうよう かだい 障 害者問題の重要課題である。そして乳幼 じき えいよう ふりょう のう はったつ そがい 児期の栄養不良が脳の発達を阻害している。 ぴんこん ぼくめつ しゃかい ゎたし 貧困の撲滅と社会が私たちを排除しているこ とに挑戦する"と力強く発表されました。

日本の本人の発表はパワーポイントを使

っての本人活動と情報発信(ステージ)で、これは各国の参加者に大きな衝撃と感動を ちた 、 発表後も多くの質問を受け我国の面 は、 ほどに 目を施しました。

^{たの}楽しいこともありました。その第一は 11 などに質問が集中しました。今回の世界会 iii つっかがくに すす く あい ひょう か 議では我国の進み具合が評価されたようで す。第二は11月9日に副島副理事長と松 た。 友常務理事と3人でアカプルコの街を散策 しました。堅固な壁の中から元気のよい子ど もたちの声が聞こえます。興味深く門から 恐る恐る入ってみると、そこは万国 共 通で 子どもたちは初めて見る日本人に興味を持 って集まってきました。その中の勇気ある子 どもが話かけたり握手を求めてきました。こ こくきいつう まつともじょう セ えいここは国際通の松友 常務のすばらしい英語で 愉快な会話で花が咲きました。街中の侘びし まっさてん はい たの たの とんない とり 製 本店に入りコーヒーを楽しみながら女 店主と話をする中でメキシコの市民生活を感 じました。その夜はアジア会議をしました。



みじわらり じちょう みぎ そえじまふくり じちょう ひだり 藤原理事長 (右) と副島副理事長 (左)

最後に私の感想ですが、障害者自立支援 法の施行に伴い利用者として大変であり、もっともっと福祉をと言う声を認めながら世界を見れば貧しい国が多いことに気づきます。 我国も第2次世界大戦の敗戦後、餓死者が何万人と出ると言われながら救援物資その他の援助を受け、餓死者も出ず復旧・復興し 現在があります。救いの手を待つ国があるならば我国として応分の手を差し伸べるときにあると感じます。全日本育成会としても国際連盟の理事として長瀬氏を派遣しており応分の貢献をしたいものと考えています。2007年11月18日より台湾でアジア会議が開かれます。育成会としても大勢の参加をしたいものです。

終わりに、ご支援いただいた日本財団や関 がしまっなまま 係者の皆様にお礼申しあげます。



リッチラー会長(中央)との朝食会

1. はじめに

ち てきしょうがいしゃ げんじょう 知的 障害者のおかれている現状!

国際育成会連盟の第 14 回世界会議がメキシコ (アカプルコ) で、2006 年 11 月 7 日から 10 日の 4 日間開かれました。

テーマは、「共生社会を築く;グローバリ もようせん ゼーションへの挑戦」です。

知的障害の親の会は世界各国にあり、目のはは国境と文化を超えて、知的障害のある 標は国境と文化を超えて、知的障害のある は子・娘たちが、社会から排除されること なく人生を歩いていくことです。

その国際組織がインクルージョン・インターナショナル (国際育成会連盟) です。

でいかい せかかいぎ 今回の世界会議がメキシコで行われたというのも意義あることで、昨年国連総会で採択された「障害者権利条約」を提案した国、それがメキシコなのです。

この会議には、メキシコ大統領夫妻、パナマ大統領夫妻(障害のある子の親)を迎えて開催されました。

参加者は、世界 57 カ国から約 1,400 名。 世界 57 カ国から約 1,400 名。 日本からは藤原理事長を含め 73 名 (登録数) が参加し、開催国メキシコにつぐ参加数でした。

かい ぎ () とう こくきいりくせいかいれんめいかいちょう 会議の冒頭、国際育成会連盟会長ダイア

ン・リッチラー氏 (カナダ、母親) の挨拶では、「社会は知的障害者のことを忘れています。ここに集まった人は生きやすい社会を作りたいと思っているのに、私達は貧困と排除の中で暮らしています。その貧困を撲滅するために、知的障害者とその家族がしている挑戦を、世界のすべての人が知って欲しいのです」と話されました。



ダイアン・リッチラー氏



本会場から出てきたところの、藤原理事長と副島副理事長



ダイアン・リッチラー会長の挨拶に覚を慎ける、 ヴィセンテ・フッォックスメキシコ大統領美妻(若)と マルティン・トリフォスパナマ大統領美妻(楚)



メキシコと日本の参加者の交流会風景



アステカ帝国の遺跡 7まのピラミッド頂上から太陽のピラミッドを望む

次の分科会では、日本から「兄弟姉妹の が会について」「大学と障害者雇用」「わかり やすい新聞ステージ」の3つを、それぞれ 異なった分科会で発表しました。

私はこの会議で世界の大多数の知的障害のある人たちは、貧困と排除の社会の中にいる実態を知りました。日本の何年前の姿でしょう。確かに日本にも存在した姿です。

日本の現状だけを見て知的障害福祉を論じていいのだろうか?という気持ちになったのは、私だけでしょうか?

また、今回は予定されたプログラム以外に、「メキシコと日本の交流会」「アジア太平洋地区ネットワーク交換会」を行いました。

メキシコとの交流会では150名以上の 意味がしゃ 参加といります 参加者があり、本人の微笑ましい発言を含め、 熱気あふれる楽しい時間を共有できました。

次回は4年後 (2010年) にドイツ (ベルリン市) で開催されます。

日本からも大勢の参加者を期待したいと思いますし、日本でもこの会議を開催することが必要であるとも感じて帰って来ました。

1. はじめに

こくさいいくせいかいれんめい そしき ほうしん 国際育成会連盟の組織と方針

国際育成会連盟理事・全日本手をつなぐ育成会国際活動委員長 なが せ おさむ 長 瀬 修

●国際育成会連盟(インクルージョン・イン ターナショナル)とは?

1960年に設立された国際育成会連盟は知 できたようかいしゃ じんけん を 推護することを目的とした国際的な非政府組織 (NGO) です。国際 育成会連盟は、家族を基盤とした組織として、 5 知的障害者、知的障害者の家族、知的障害者の家族、知的障害者がいる。 第一次では、115 カ国の 200 以上の組織が加入しています。

国連では、協議資格を持ち、障害分野の世界の組織の連合体である、国際障害同盟
(IDA) の当初からの有力なメンバーです。

国際育成会連盟は世界を中東・北アフリカ、ヨーロッパ、アフリカ・インド洋、米 たいへいよう 州、アジア太平洋の5つの地域に分けて活動しています。

製立当初は、知的障害者本人の参加はありませんでしたが、現在は全部で14名の理事のうち、5名は知的障害者本人が理事を発めています。各地域から必ず1名ずつ、産人にんります。各地域から必ず1名ずつ、産人にんりますが出るように、メキシコの総会で決まりました。アジア太平洋からは、ニュージ

ーランドのロバート・マーティンさんが本人 理事として務めています。

こくれんしょうがいしゃ けんり じょうやく国連 障 害者の権利 条 約

国際育成会連盟がここ数年、その活動とし ちから そそ て力を注いできたのが、国連障害者の権利 じょうゃく 条約です。

メキシコの大会が終わった翌月の12月13日に国連総会は、障害者の権利を採択しました。最初に提案されてから20年かかってようやく、国際社会は、障害者の権利をではあってようやく、国際社会は、障害者の権利をであるための国際条約を作ったのです。

世界会議の開会式に出席されたメキシコのヴィセンテ・フォックス大統領が2001年の国連総会で提案をして、2002年から条約を作るための議論が始まりました。国際育成会連盟は国連でのその議論に最初から積極的に参加してきました。前に述べたロバート・マーティンさんが国際育成会連盟を代のようして重要な発言を何度も行いました。

国際育成会連盟の観点からこの条約で知 できしょうがいしゃ とく じゅうよう 的障害者に特に重要なのは、地域社会で生 かったる権利を認めた第19条、インクルーシ



国連で発言するロバート・マーティン理事

ず教育を認めた第 24 条、知的障害者の法ではようかいしゃの法を関するとの権利を認めた第 12 条、そして、障害者の性が、対策を関するための家族への支援を認めた前文(x)です。

●貧困と**障害プロジェクト**

にようがいしゃ けんりじょうやく くわ こくきいいくせいかい 障害者の権利条約に加えて、国際育成会 れんめい じゅうよう 連盟が重要なテーマとして取り組んでいる のが、貧困と障害の関係です。

国連は、2015年までに世界の貧困を半減させる試みをミレニアム開発目標として掲げています。国際育成会連盟はこの目標を ちてきしょうかいない。国際育成会連盟はこの目標を ちてきしょうかいなん や 知的障害分野でも実現しようと努力しています。

 の資金を獲得して、世界の知的障害と貧困 に関する研究とセミナーを各地域で実施し ました。

当初、アジア太平洋地域は対象になっていなかったのですが、昨年 10月 14日・15日にタイのバンコクでアジア太平洋の知的障害と貧困に関する小規模な会合を開くことができました。

こうした世界各地の取り組みをもとに、「私たちの声に茸を傾けてください」"Hear Our Voices"という世界の知的障害と貧困に関する報告書がメキシコ大会で公表されています。英文ですが、

http://www.e.u-tokyo.ac.jp/~nagaseo/ HearOurVoices+book.pdf からダウンロー ドできます。

1. はじめに

こく きいいくせいかいれんめい 国際育成会連盟 I.I(インクルージョン・インターナショナル)メキシコ会議の意義

インクルージョン社会にむけて *** かい やくわり 親の会の役割

せんにほんて いくせいかい こくさいかつどうたんとう り じ たけ い こう 全日本手をつなぐ育成会 国際活動担当理事 武 居 光

メキシコ会議の意義は、これからの親の会が果たすべき課題が示されたことにありました。それはインクルージョン社会にむけて、

- ① 貧困の解決
- ② 親・きょうだい・本人による社会変革
- ③ 本人参加

の3点です。

●インクルージョン社会は、貧困問題の解決 から

や戦後世界中に市場経済の自由化(グローバリゼーション)が広がりましたが、各国間 (あるいは国民間)の経済・福祉格差は広がる傾向にあります。

国際連合は「2015年までに世界の貧困を解決するための緊急プロジェクト」を開始し、例えば先進諸国に「アフリカ諸国に対する巨額の債務放棄」を提言するなど、大胆な政策勧告を行っています。

I.I は以前にも増して、こうした国連の取り組みと歩調をあわせています。

I.Iが、声も上げられぬほど過酷な状況に



収集資料の中から

さてきしょうかいじしゃ 置かれている知的障害児者とその家族の代 がたきとして世界各国政府への影響力を強め ていこうとするとき、国連との連携は現実的な選択です。

I.I は、この世界会議に間に合わせるため、大変な努力を払い、世界の5地域で「知的障害と貧困の関係」を調査し、膨大な数のを説した(このプロジェクトにノルウェーの親の会が多額の資金提供をしていることが、各国から高く評価されました)。

調査結果を要約すると、

- * 知的障害児者とその家族はどのような とないないでも、社会的援助がなけれ がよいないにないでも、社会的援助がなけれ は最貧困層に置かれる可能性が高いこ と。
- * 介護負担を背負う障害児家族の経済 状態は多くの場合、イギリスにおいて もメキシコにおいても貧困層に属して いること。
- * 貧困は社会的排除 (エクスクルージョン) をもたらし、社会的排除はさらなる貧困を生むメカニズムがあること。
- * このような社会では親や本人はあわれ みの対象であって政策提案者ではない こと。
- * 知的障害児者とその家族の社会的統合 (インクルージョン)を推進するとき、 がれまず彼らを貧困から解放する政策が何より重要であること。

です。

I.I はこの世界会議での各国の親の会の合意を出発点に、今後、上記の問題解決を求めて、各国政府に強い働きかけを始めることになりました。

●親・きょうだい・本人は、施しの対象でなく「公正な社会」の提案者である

会議には、主催国のメキシコ大統領、隣国のパナマ大統領 夫妻らがそろって登壇しましたが、主催国・近隣国の大統領たちが政治的なリーダーとして、以下のような重要なメッセージを発信したことは、世界会議の歴史の中でも大きな出来事です。



メキシコ大統領と握手をする藤原理事 長

1. はじめに

ビビアン・トリフォス・パナマ大統領 に熱心になるばかりで、その構造的問題に ヒゅヴぶルセォ 充 分迫ることができないできました。し かし貧困は社会的排除の結果なのです。現 者の支配的なスキームが続くかぎり、これ は続いていきます。パナマにおいて、知的 障 害者は目に見えない問題でした。その ため彼らは、社会的な援助を受けることが できませんでした。大統領は、障害者との 対話を優先するようにしてきました。その なかで政治上の努力をしていくという方 針をもち、現在までにかなりの成果をあげ ています。私たちは、偏見、哀れみ、誤解、 確じているたったいとったたか 施しを与える態度と戦ってきました。家族 は施しを求めていません。親たちは、自分 たちの権利を求めている人たちなのです」

この発言が各国(特に途上国)の政治リーダーに真摯に受け止められるなら、親の会や本人活動の位置づけは、世界各地で大きく進展する可能性があります。



ジュディー・ヒューマン (右) と一緒に

●本人の参加〜新たな地域からの参加、親と の連帯

これまでの世界会議に参加する本人たちは、スウェーデン、デンマーク、イギリス、カナダ、ニュージーランド、オーストラリアなど、どちらかといえば先進国の本人活動グループのリーダーたちでした。

ところが今回はアフリカ、中南米、中近 東、アジアなどの本人たちが活発に発言していたことが非常に印象的でした。本人参加 も親の会同様、地球規模にしていこうという方向で動いていることがひしひしと伝わってきました。

その背景には、彼らが世界 5 地域から I.I に理事として迎え入れられ、特に「障害者の権利条約」制定作業に関わってきた経過がありました。I.I の本人理事任命の決断と、なれらとの共同作業の丁寧さには、頭が下がるとの共同作業の丁寧さには、頭が下がるといいしました。見習わなくてはなりません。

一方、積極的に親の会への本人参加をすすめている I.I 欧州 連合からは、初日の会議の冒頭で各国の親の会にむけて「あらゆる場面での本人参加をするにはまず親の会場面での本人参加をすすめるにはまず親の会

が努力しましょう」と強い提案がなされました。本人同士の連帯だけでなく、親と本人とが強い連帯を作ろうということです。会議 とが強い連帯を作ろうということです。会議

- ・ 入所施設をなくしていこう
- ・家族を支援しよう
- ・インクルーシヴ教育をすすめよう
- ・出生前診断と堕胎を禁止しよう・・・

このような大会決議がされましたが、この明が、 この明が、 この明が、 この明が、 この明が、 この明なこそ、親が本人との共同作業 を経て達成したビジョンといえるでしょう。

●まとめ

会議で共有された基本的なビジョンで、 日本の親の会や関係者にとって参考になることを以下の5点にまとめてみました。国際であな指針として、参考にしていただければと思います。

- 当事者には、当事者であるがゆえに「Society for all」(みんなのための社会)を構想する力がある。
- ② つまり親・きょうだい・本人は援助の たいしょう 対象だけでなく、為政者や専門家にとって社会改革のパートナーである。
- ③ しかし現実のさまざまな社会的排除 が、彼らの潜在的な力を弱めている。
- ④ したがって、あらゆる局面におけるインクルージョン (排除の克服) が、解 決の土台になる。
- ⑤ 社会制度の中で計画され実施されるサービスは、単なる個人消費の「商品」ではなく、公正な社会秩序を維持・発展させるための「社会的手段」と位置づける必要がある。



まいしゅう び かい ぎ はっぴょう せ かい ほんにん 最終 日の会議のまとめの発表をする世界の本人たち

プレ会議プログラム

2006年11月7日 (火曜日)
9:00~9:15	歓迎のあいさつ:国際育成会連盟会長 ダイアン・リッチラー 大会プログラム委員長 ロベルト・リール
9:15~10:00	本人 (セルフ・アドボケート) から:「プレ会議の 6 つのテーマについて 自分たちが もっとも重要だと かんがえること」 ・本人活動と 国連障害者権利条約 ・弱さ(傷つきやすさ)と影力 ・共生 (インクルージョン)をすすめるにあたって 宗教団体のはたす役割 ・共生社会を促進するために 教育の果たす役割 ・変族の運動の将来と 兄弟姉妹の役割 ・共生教育 (インクルーシヴ エデュケーション)と 教員連盟
10:30~11:30	開会式 ヴィセンテ・フックスメキシコ大統領夫妻、トリホス・パナマ大統領夫妻
11:30~12:00	休憩(コーヒーブレイク)

本人活動と国連の障害者権利条約:われわれの条約!

車椅子対応 会場:プリンセサ1,2 ことば:英語 スペイン語

プレ会議の旨的は、世界中の本人活動の つながりを つよくすること ・日々の生活の経験をわけあい 将来の希望 (ビジョン) を 語りあう

・自分たちの自標(ゴール)とビジョンを達成するために 権利条約をどうつかうか

・世界中の仲間と どうやって 手をつなぐか

進行役: ロバート・マーティン / デズモンド・コリガン ジョングー・ゴメス

> ハイデ・ベックル / アニーダ・フェレー フランシーヌ・デオゴ・デ・オリヴェイラ

クインシー・ムィヤ / ジェイムス・ムゴンバ アンドレ・ヴェガ・リマ・バスト

マリー・ファラ/ファディア・ファラ

発題者: ヴィットリア・ベリア

アンナ・マカリー

	内容のせつめいと自由討論
12:00~2:00	またらしい国連障害者権利条約のせつめい
	重要な問題の確認とワーキンググループの討論
2:00~3:00	5002 Lass 昼 食
	あたらしい条約の活用:どうすすめるかを討論する
3:00~5:30	大会へのもっとも大切なメッセージ: ためのもっとも大切なメッセージ: 大会の全参加者に 本人にとってなにが一番大切かを つたえる

弱さ(傷つきやすさ)と暴力:黙っていない

会 場:Marquesas 1

(デ) 語:英語、スペイン語

車椅子対応

この分科会では「障害のある人たちに対する暴力(家庭内、地域社会、制度上)を個人の経験や研究、実践を通して多様な制度上)を個人の経験や研究、実践を通して多様な制度があら明らかにする。個人、家族、社会で傷つけられないための戦略を討議する。また、暴力に関する経験や今後の見通しに関する報告がなされ、ユニセフや他の関連団体の暴力に関する調査結果も報告される。暴力に対抗するための政策や地域戦略をさぐる。

進行役:シェイラ・ホリンズ

発表者: ナンマ・ラーネル

ジェーン・ヒューベット

ノエミ・ディアス・マロキン ナイジェル・ホリンズ

ヴェネッサ・ドス・サントス

	この日のテーマについて、各国の報告者がそれぞれの立場から見解を述べる			
12:00~12:00	2 名の報告者が経験と調査に基づく暴力の実例をのべる。(スペースがあれば) 小グループに分かれて計議をおこなった後 パネラーを含む全貨で計議する			
2:00~3:00	5493 Lk< 昼 食			
	3名の報告者が 自国における裁判闘争についてのべる。うち一名は裁判に勝訴した本人			
$3:00\sim5:15$	裁判について			
5:15~5:30	まとめ			

また生(インクルージョン)をすすめるために 宗教団体がはたす役割 宗教 でんぱん かんしゅう

会 場:プリンセサ3

言語:英語、スペイン語

車椅子対応

知的障害者とその家族にとって それぞれが属する学教組織は、彼らが地域社会と共生する際の架け橋であり、また障壁 (バリアー)の一つともなってきた。これまでの経験や実態をふりかえり、多様な信仰、宗教組織の代表が、その方針や実践、また、知的障害者その他社会の片隅に追いやられた人たちに与える宗教の影響について考える

進行役:ガブリエラ・ドゥ・ブルバノ

発表者:ミッシェル・ネイリス マルガ・アルバレ

ファーザー:シプリアーノ・サンチェス・ガルシア

ラビ:レオネル・レヴィ エドガー・デュラン

	導入 ミッシェル・ネイリス
12:00~2:00	パネル:さまざまな信仰、宗教組織から パート 1 マルガ・アルバレ ファーザー:シプリアーノ・サンチェス・ガルシア ラビ:レオネル・レビ エドガー・デュラン 質問と意覚
2:00~3:00	5.0.2.5 昼 食
3:00~5:30	パネル:さまざまな信仰、宗教は微から 共生 (インクルージョン) へのビジョンと経験を語る パート2 パート1と同様 質問と意見
	まとめ 結論と提案 ガブリエル・ドゥ・ブルバノおよび参加者

2. 大会プログラム

社会における共生をすすめるために、高等教育のはたす役割

・共生への理解と具体的な戦略を学部を越えて進める専門教育課程(技術者、医師、弁護士等)の開発

・共生に関する研究や知識の開発にさらに力を入れる

・共生についての知識の活用を支援するため、障害者団体と協働する

進行役・メラーー・パーッチ

進行役:メラニー・パニッ	プ
	歓迎とキーテーマの紹介…ステージの設定 メラニー・パニッチ:ライアソン大学(トロント)障害学部長 地域社会を築く大学
12:00~2:00	研究と協力
	パネラー:ジョージ・イワン・コレア マリア・デル・カルメン・マルブラム
	ブルセ・ウディスキー ヘイディ・ケンウオーシー (ビルとマーガレット)
	討論とまとめ
2:00~3:00	5jijう U.k.< 屋 食
3:00~5:30	大学と社会変革: 共生文化の創造 パネラー:ナガセ・オサム アン・ヒューソン ロシオ・モリナ ジュリエッタ・ザカリア 討論と整理
	まとめと結論 メラニー・パニッチおよび参加者

家族の運動の将来と兄弟姉妹の役割

経験を分かち合う: 常常姉妹の声に茸を傾けよう どうすればもっと役に立つことができるのか

兄弟姉妹としての経験や実情を分かち合うことで連帯がつよくなり、インクルージョンの見張役としての共同体が生まれる。 知的障害者の兄弟姉妹として生きることは、家族の一員としての役割と、潜在的にインクルージョンをすすめてゆく役割の 満方を含んでいる。インクルージョンの重要な監視役としては、政治家や法律家や医師、知的障害者の兄弟姉妹がいる博愛 主義の人などがあげられる。家族や家族の一員である障害者との係わりで、彼らは個人的な関係と同時に、政治的なたたか いも、になっている。このセッションには、兄弟姉妹に変化をもたらしてきた運動のリーダー、また彼らの生活に大きく影響する制度問題のリーダーを招いている。

進行役:フェリシ・ゴンザレス

発表者:テレース・ケンペナース・フォロン

マチコ・カワムラ ヤヴェル・キアノ ヨリー・ベリオス

レイナ・アントニア・ガルシア

ジュディス・バラード

	はじめに テレース・ケンペナース・フォロン				
12:00~2:00	協力者 ヤヴィエル・キアノ マチコ・カワムラ				
	討論:質問と意見				
2:00~3:00	500 Lex 昼食				
3:00~5:30	協力者 ジュディス・バラード ヨリー・ベリオス レイナ・アントニア・ガルシア				
	討論:質問と意見				
	まとめ 結論と提案 フェリシア・ゴンザレスおよび参加者				

共生教育(インクルーシヴ教育):教育の戦略

言 語:英語、スペイン語 会場: Marquesas 3,4

車椅子対応

このセッションはインクルーシヴなクラス運営を目指す教育の戦略と教員養成に関するものである

教師は、すべての子供たちが一学級内でうまく共生できるようにする首分の能力に影響をあたえる。さまざまな問題に直面

教連盟は、インクルーシヴなクラスを実現するためのパートナーとして重要である。

進行役:ミッシェル・バッハ ゴードン・ポーター

協力者:ウオルター・アイグナー

エリシオ・ガヤルド

イネス・デ・エスカロン

リリアン・マリヤ

マリオーラ・フランコ・エスケラ

ヴィアン・ティモンズ

フレディー・エドガルド・セルゴヴィア・フェルナンデス ブランカ・エスピノサ・ペレグリノ および クラウッデ

	プナ・ペレグリノ および クラウッデ・A・ロッシロ・アルヴィッツ クレス・ホワイト および ボブ・レニエ			
	はじめに ミッシェル・バッハおよびゴードン・ポーター インクルーシヴ教育のための支援教師			
12:00~2:00	セクション1 ウオルター・アイグナー イネス・デ・エスカロン			
12.00~2.00	セクション2 フレディ・エドガルド・セルゴヴィア・フェルナンデス エリシオ・ガヤ ルド			
	計論: 質問と意見			
2:00~3:00	ちゅう しょく 昼 食			
	セクション3 ブランカ・エスピノサ・ペレグリノおよびクラウディア・エイ・ロッシロ・ アルヴィツ リリアン・マリア マリオーラ・フランコ・エスケラ			
3:00~5:30	セクション4 ヴィアン・ティモンズ マーガレット・クレス・ホワイトおよびボブ・レニエ			
	討論と意見 まとめ 結論と提案 ミッシェル・バッハ ゴードン・ポーターおよび参加者			
6:00~7:30PM	ウェルカムセレモニー			
7:30~8:30 PM	ウエルカムカクテル			
8:30~11:00 PM	ディナー レストラン:プリンセサ、チュラ ビスタ、ポサディタ			

2. 大会プログラム

ほんかい ぎ 本会議プログラム

2006年11月8日 (水曜日)

8:15 - 9:30 本会議開会

会場: Fiesta A,B,C

萱語: 英語、フランス語、日本語、スペイン語

Accesibility

Her Honour, Señora Vivian Fernández de Torrijos

母であり大統領夫人による話し"貧困,除外と平和について"

Vivian Fernández de Torrijos 大統領 美人と、ごまんでパナマ共和国大統領の Martin Torrijos のお売りは今総会の名誉会長です。 \mathbf{a} こんは親であり、パナマの国際育成会連盟 (FENAPAPEDI) の 長年の会員でありサポーターでもあります。 大統領、大統領 美人ともに、 パナマにおいて障害のある人とその家族の参加を促進させるための国の方針と方策を発展させることでインクルージョンへの参加を証明しています。

9:30-10:00 コーヒーブレイク (休憩)

10:00 - 11:00

短右的な声:貧困と障害について家族が教えてくれること 「会社のないないかいれない」 国際育成会連盟による「貧困と障害」についての包括的報告

国際育成会連盟は三年以上に渡り、世界中の会員と共に知的障害のある人とその家族の実情の探求に携わってきました。この研究を通し、排除や軽視の現状を明らかにすることは、私たちの活動の為だけでなく世界のリーダーに分かってもらうためにも必要です。私たちが国連(UN Millennium Development Goals)で決められた貧困を減らすという大きな目標を達成する為には、障害のある人とその家族の声はもっと聞かれるべきです。

司会者: Diane Richler, 国際育成会連盟会長

序論: Helene Holand, ノルウェー発達障害協会会長

DVD Presentation with photo montage by: Carlos Reyes-Manzo, イギリス

11:00 -13:00

パネルを使った応答:異なった見方からの分析と意見

Hon. Judy Heumann, Global Partnership on Disability and Development

Verónica Sánchez Alexander, メキシコ

Vittoria Beria, 国連

Quincy Mwiya, ザンビア

Fernando Landeros, メキシコ

13:30-14:30 昼食

レストラン: Princesa, Chula Vista and Posadita

セッション発表会 2:30-3:45

#5 かいじょう 会場: Fiesta B かいじょう 会場: **Princesas 1 y 2** 成で 記れて 言語: 英語、スペイン語 会場: **Fiesta C** 京語: 英語、スペイン語 会場: Fiesta A 音語: スペイン語 会場: Princesas 3 y 4 言語:英語 言語:英語,フランス語 ,日本語、スペイン語 まな健康管理からの排 また ろうどう しじょう 主な労働市場における インクルーシヴ教育: 良 ラテンアメリカにおけ インクルージョン:方策 と過去から学んだこと 国連の大会と、知的障 い実践例の交換 除について る家族組織の強化 パネル発表 会とワーク 害のある人たち: 司会者:未決定 司会者: Walter Eigner パート 1 パネル発表会とワーク ショップ パート1 ショップ Ines Boban & 司会者: Bruce Uditsky 司会者: Gabriela Castro Andreas Hinz Guillermo Lucia del Carmen 司会者: Amalia Gamio de Búrbano Flores Briseño Lenna Thorsson Gómez Peraza de Vianne Timmons Inés de Jocelin Valdés Vittoria Beria. Palesa Tyobeka Escallón Lecomte Abigail Hernández Indiana Joanna Owen Blanca Celea Ivy Henriksen Fonseca Barahona **Emmanuel Kalake** Felicia Victor Hugo Flores Jorge Luna González Anna Macquarrie Lucila Luxardo ロバート マーテ Mariana Verónica Elizabeth ィン Maldonado Romero Mondragón Andrade David Rojas and Armida Sánchez Arellano Ernesto Villegas Guzmán

#6 会場: Marquesa 1 言語: スペイン語	#7 かいじょう 会場: Marquesa 2 言語: 英語、スペイン語	#8 会場: Marquesa 3 言語: 英語、スペイン語	#9 かじょう 会場: Marquesa 4 説がご言語: 英語、スペイン語	#10 for the second of the se
**・うい インクルーシヴ教育 じっせんれい こっかん い実践例の交換	く ま : 良 ちぃき ひんこん ほうこく 地域の貧困の報告 Part 1	Practical strategies for supporting self- advocates / インクルー	かっこく かいいん ていけい きょうか 各国の会員の提携の強化、パート 1	しょうがい 障 害のある子供と暴 りょく 力 : ユニセフからの 報告
司会者: Pilar	司会者 : Connie Laurin-	シヴな地域社会の構築	司会者: Alicia de la Peña	
Samaniego	Bowie • アジア太平	し かいしゃ み けってい 司会者:未決定	Michael Bach	Garren Lumpkin
Karina	洋: Pramila	刊五祖 · 水沃定	Bernhard Conrads	
Chowanczak	Balasundaram and	Rita Endresen and	Geert Freyhoff	
Sonia Ignuacel	Dr. Gadkari	Steiner Nyland	Ralph Jones	
Elizabeth Mont Aguilar	es ・ ラテンアメリ カ、カリビアン:	Nigel Hollins and Sheila Hollins	Sue Swenson	
Julia Mora	Roberto Leal	Ann-Christine Hult		
	・ メキシコ : Raquel	Gabriela Martinez		
	Jelinek	Olivares		
	• アフリカ: Babra			
	Phiri and James			
	Mungomba ***			
	• ヨーロッパ: 未決 定			

2. 大会プログラム

セッション発表会 4:00-5:30

こうプログル教女 中・				
#11 がじょう 会気 : Marquesa 3 会気 されどこ 言語: 英語、スペイン語	#12 かいじょう 会教: Fiesta A 言語: スペイン語	#13 かいじょう 会教: Princesas 1 y 2 会教: 改語、スペイン語	#14 ************************************	#15 かいじょう 会教: Fiesta C 会教: ※ Fiesta C 言語: 英語、スペイン語
言語: 英語、スペイン語 インクルージョンの奨 励 一司会者: Judith Vaillard ・ Abigail Hernández ・ Ingrid Köerner ・ Dalia Rocha ・ Victoria Eugenia Esquivel Cordero	言語:スペイン語 ラテンアメリカにおける家族組織の強化 パネル発表会とワーク ショップ パート 1 この会者: Gabriela Castro de Búrbano Inés de Escallón Indiana Fonseca Felicia González Mariana Elizabeth	言語: 英語、スペイン語 ***********************************	生活の質について: 記書: 英語 生活の質について: 記念者: María del Carmen Malbrán Per Holm and Gunvor Munch Tina Luther Handegaard and Maarten Soeder Bousebta Mina Oie Umb-Carlsson	言語: 英語、スペイン語 に
	Romero Andrade	 David Rojas and Armida Sánchez Arellano Ernesto Villegas Guzmán 		

Robert Regnier Guadalupe Vargas Elisa Saad Balasundaram and Dr. Gadkari Bowie Robert Regnier Steiner Sandness Mathi (MJ) Theron Peña Yuko Akaki Yuko Akaki Michael Bach	Guadalupe Vargas Elisa Saad	 アジア太平 洋: Pramila Balasundaram and Dr. Gadkari ラテンアメリ カ、カリビアン: Roberto Leal メキシコ: Raquel Jelinek アフリカ: Babra Phiri and James Mungomba 	Steiner Sandness	・ Yuko Akaki ・ Julie Casey ・ Jorge Font ・ Heather Forsyth ・ Rikke Gurgens ・ Michiko Hanazaki ・ Miki Koike ・ Patricia Mena ・ Christopher	司会者: Alicia de la Peña • Michael Bach • Bernhard Conrads • Geert Freyhoff • Ralph Jones
--	---------------------------------	---	------------------	---	--

2006年11月9日 (木曜日)

9:00-10:30

パネル発表会:インクルーシヴ教育=教育の質と平等性

る。全ての人への教育を達成する為にはどの様に、効果的なインクルーシヴ教育の知識を共有すればいいのでしょうか。

司会者:ゴードン・ポーター

参加者: Bob Prouty, Fast Track Initiative World Bank

Peter Evans, Organization for Economic Cooperation and Development OECD

Marie Farah, レバノン

Miguel Ángel Cañizales, 教育大臣, パナマ

10:30-11:00 コーヒーブレイク (休憩)

11:00-13:00

パネル発表会:

価値観と倫理観による、障害のある人の生活への脅威

国連総会による管害者の権利条約は、生活する権利を管ってくれることでしょう。現存の人権があるにも関わらず、気防 電力を使いるのようなでは、生活する権利を管ってくれることでしょう。現存の人権があるにも関わらず、気防 管害のある人やその他の人の命を脅かすような遺伝子実験や出生前テストなどが行われています。このパネル発表会では遺伝子研究とテクノロジーの条約の包含の探求をします。

司会者: Gerardo Mejia

参加者 : José-Maria Cantú, メキシコ

Bernhard Conrads, Lebenshilfe, ドイツ Gilberto Rincón Gallardo, メキシコ

Haydee Beckles, パナマ

13:30-14:30 昼食

セッション発表会 2:30-3:45

と 2:30-3:43				
#21 かいじょう 会場: Princesas 3y 4 呼んで 言語: スペイン語	#22 かじょう 会場: Princesas 1 y 2 説がで 言語: 英語、スペイン 語	#23 wbss 会場: Fiesta A のなど 言語: 英語	#24 ***********************************	#25 MULES SCHOOL SHIP SHIP SHIP SHIP SHIP SHIP SHIP SHIP
インクルージョンの ままざま めん おんがく しゅうきょう 様々な面:音楽,宗教、 性別 しいしゃ 司会者: María Luisa de Ramón-Laca	インクルージョンの 一般的な方針 パート 1 コ会者: Francisco	インクルージョンの はった。またしませれい 発展の良い実践例, パート 1 こかいしゃ 司会者: Harald	を は ない は な	脱施設化とインクルーシヴな地域 社会の構築の方策パート 1 こうが、こうが、こうが、 社会の構築の方策パート 1 こうが、こうが、こうが、こうが、こうが、こうが、こうが、こうが、こうが、こうが、
 Vita Martinez Cuellar Susana Sandra Oliver Jose Ramon Vitoria Gallastegui 	 Manuel Campos Roberto Cedeño Sánchez Raúl Sergio González Návar Carlos Kaiser Mansilla Irlanda Ruiz Colleen Wieck and Jayne Chase 	Guillermo A.Flores Briceño Knut Roger Anderson Phillip Stephan	・ Gare Fabila ・ Elaine Johansson ・ Gabrielle Miller ・ Verónica Mondragón Merino ・ Linda Perry	Bjorn-Eirik Johnsen and Leif S. Lysvik Jan Meyer Elaine Robb and Alan Robertson Richard Robbins

2. 大会プログラム

# 26 かいじょう 会場: Fiesta C 成のでは、 記述できない。 言語: 英語、スペイン 語	#27 かじょう 会場: Marquesa 1 言語: 英語	#28 かいま: 会場: Marquesa 2 言語: 英語、スペイン語	#29 かいじょう 会場: Marquesa 3 言語: 英語、スペイ ン語	#30 かいじょう 会場: Atlantes 言語: 英語
せかいぎんこう 世界銀行による アメ リカにおけるインクル しかいち けんきゅう ーシヴ 教育の研究:パート1	インクルージョンの たっせい 達成への過程と方法: ルーマニア、インド、 ケニア、南京フリカ による国家間発表パート1	アメリカ大陸諸国の にようがいしゃ 障害者の10年: たんで、10年の私たち の希望	インクルージョンの いっぱんてき ほうしょ 一般的な方針: 良い じっせんれい がくだい 実践例の拡大パート 1	家族アドボカシー:良い実践例と 学んだ事パート 1 コ会者: Zuhy Sayeed
司会者: Rosangela Berman Beiler • Mari Carmen Escandon	司会者: Fred Heddell Annika Neilson Johans Tveit	Manuel	Michael BachEduardoBarbosa	 Vanesa dos Santos Helene Holand Martin Hollins Sheila Hollins Willy Lichtwarck
Peter EvansIsmael GarcíaRicardo Silveira	Sandvin	Moussa CharafeddineJulio Wilfredo Guzmán Jara	Theo KörnerMa. Rosa PayánCaroline Weber	Lillian MarijaMirriam NamanjaBarbra Phiri

はっぴょうかい セッション発表会 4:00-5:30

セッション発表会 4	:00-5:30			
#31 かいじょう 会場: Marquesa 2 がいこう がいこう がいこう がいこう がいこう がいこう がいこう がいこう がいこう がいこう がいこう がいこう がいこう がいこう がいこう がいこう がいこう でいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる に	#32 かいじょう 会場: Princesas 1 y 2 言語: 英語、スペイン語	#33 ***********************************	#34 かいじょう 会場: Marquesa 4 げんごこ。英語、スペ	#35 ************************************
インクルーシヴ教育 しかいしゃ 司会者: Margarita	インクルージョンの一 ぱんてき ほうしん 般的な方針パート 2	インクルージョンの はってん よ じっせんれい 発展の良い実践例, パート 2	イン語 *	かぞく 家族アドボカシー:良い実践例と **な 学んだ事パート 2
Molina	司会者: Francisco Cisneros	しかいしゃ 司会者: Harald	助: 意思決定、他のコミュニケーシ	司会者: Zuhy Sayeed
 Timothy Makofan Gugu Kgare Janine Stewart & Trish Grant Eliseo Guajardo Ramos 	 Manuel Campos Roberto Cedeño Sánchez Raúl Sergio González Návar Carlos Kaiser Mansilla Irlanda Ruiz Colleen Wieck and Jayne Chase 	Guillermo A.Flores Briseño Knut Roger Anderson Phillip Stephan	************************************	 Alf Andersen Vanesa dos Santos Helene Holand Martin Hollins Sheila Hollins Willy Lichtwarck Lillian Marija Mirriam Namanja Barbra Phiri
			Mondragón Merino • Linda Perry	

#36 かいじょう 会場: Fiesta C 京語: 英語、スペイ ン語	#37 会場: Marquesa 1 言語: 英語	#14 five tases: Princesas 3 y 4 fixe and c 言語: 英語	#39 かいじょう 会場: Marquesa 3 げんご えいここ 言語: 英語、スペ	#40 がいじょう 会場: Fiesta B 京語: 英語、スペイン語、日本 ご語、フランス語
世界銀行による ア メリカにおけるイン クルーシヴ教育の研究:パート 2 司会者: Rosangela Berman Beiler	インクルージョンの達成への過程と方法:ルーマニア、インド、ケニア、南かいはつびょうカ による国家間発表パート 2 では、	HIV/エイズ: to Tell HIV/エイズ: to Tell	イン語 インクルージョン の一般的な方針: と は は は に は に は に は に は に は に は に は に は	Richard Robbins Richard Robbins Richard Robbins Richard Robbins Richard Robbins

2006年11月10	か きん よう び)日(金曜日)			
09:00 –10:30	要旨: すべての人の為により良い世界を作る Sheikha Hessa Khalifa bin Ahmed al-Thani.			
03.00 - 10.30	特別レポーター on Disability of the United Nations Commission for Social Development			
10:30-11:00	コーヒーブレイク(休憩)			
11:00 –13:00	パネル発表会: 地域社会に住む権利:脱施設化に対しての国連総会の意味 地域社会に住む権利:脱施設化に対しての国連総会の意味 がたりませの程度、施設解体とインクルーシヴな地域社会作りを進めてきたのか。世界的な広い視点で見た時、脱施設化の中で色々な共通点と相違点も見ることができました。 国連条約の「地域社会で生活する権利」の実施をサポートする為の私たちの知識から、何を学ぶことができるのか。どの様な問題点が残っており、また今後どの様な問題点が生まれてくるのか。 は30%まできるから、どの様な問題点が残っており、また今後どの様な問題点が生まれてくるのか。 は30%までは、いくないかがいます。 日本のでは、10%になり、10%には			
13:30-14:30	^{ちゅうしょく} 昼 食			
14:30-5:30	会議総括 : Michael Bach, Roberto Madriz, David Towell and facilitators			
15:30-16:30	第 14 回国際育成会連盟世界会議 閉会式 Salon de Fiestas Hotel Fairmont Acapulco Princess			
20:00	GRAN FIESTA MEXICANA Hotel Fairmont Acapulco Princess Gardens			

(翻訳 佐藤 智大)

3. 会議報告: 1) 現地における大会速報

★★★メキシコ大会会議短信 (第 1 報) 11 月 7 日 プレ会議★★★

かぞく ほんにん ちから じゅうし 家族と本人の力を重視しよう

11 月7日、会議に発立つ「プレ会議」が 強大に開かれました。今回の会議には、57 カ国から 1400 名が参加しています。午前 中いっぱい、この会議の課題「なぜ私たち はここに集まったのか?」が関係各国の本人 と親、そして政治家から報告され、その力 強さはまさに圧巻でした。すばらしい報告の います。 ではない。 なおいる。 はないる。 ながあれたない。 はここに集まったのか。 はここに集まったのか。 ではない。 と親、そして政治家から報告され、その力 強さはまさに圧巻でした。すばらしい報告の います。 ではない。 なおいる。 ではない。 なおいる。 ではない。 なおいる。 ではない。 と親、そして政治家から報告され、その力 強さなはまさに圧巻でした。 でした。 ではない。 でした。 ではたる でした。 でした。

● 3 枚のアクセシブルカードを使おう! (ヨーロッパ親の会)

長いこと、我々は、知的障害の人の声を はなら はなら はないこと、我々は、知的で害の人の声を

親の会自身が実行しようとするとき、それは、いままでと違う努力が必要であった。 は、いままでと違う努力が必要であった。 会議のモットーは、ゆっくりと、短い言葉で 話すレッスンが必要なのです。それを、私たちの会議で実践してきました。

 人が支援者から説明する時間を持てるように、発言を少しの間控えるようにします。

- ■黄色いカード=早口でついていけないとき に出します。話す人はスピードを落として 話すことになります。
- ■緑のカード=その話に同意できる、よく 理解できるときに出します。緑のカードを 出されたら、話す人はうれしいですし、ほかの人が見習うことができます。

つまり、このカードは、話す人を助けるカードなのです。そして、同時に会議に参加しているひとりひとりの人を助けるのです。

●家族は社会参加を助けてくれた クインシー・ムィア (本人、ザンビア)

おはようございます。ザンビアから来ました。私は、家族とコミュニティでくらしています。家族の役割を話します。家族とは何い親、とようか?アフリカでは家族とは、前間親、その家族のさまざまな人からサポートを得ています。それは私の社会参加のサポートであり、私がコミュニティで何ができるかを、私がコミュニティで何ができるかを、

です。 首分が働けるのは、家族が私にできる仕事を見つけてきてくれたからです。 私がほかの人たちと交流するためには、家族が必要です。私が生まれたとき、した。 家族が必要です。 が私をしたまれたとき、した。 家族が必要です。 が私たちを私たちらです。 なが必要です。 が私たちをもした。 ないといるのは、そのおかげです。 ザンビア とりようだいの といるのは、そのおかげです。 ずンビア とりようだいの といるのは、そのおかげです。 ボンビア の仕事も、 兄弟の はまりだいのおかげです。 シャンストランの仕事、 清除の仕事も家族の とりました。

ザンビアは、貧困が深刻な国です。5人の うち2人しか学校にいけない家族があたりまえです。障害児がいる場合、親の手は足りなくなります。エイズの問題もあります。家族が病気になり、両親が育児ができまるくなることもあります。貧困は、健康をなることもあります。

●フェアな教育を!

ディンカ・ペドロ (本人、クロアチア)

すべての人に教育権があるが、知的障害 **
者は、無視されやすいのです。

しかし、それはフェアではありません。
****** 私たちもほかの人と同じように学校にいき
たいのです。

とくしゅがっこう へいき 特殊学校は閉鎖されるべきです。 すべての人が一般の学校にいくべきです。 かっこう 学校はすべての人に重要です。 読み書きができるようになって、人は仕事 につけるからです。

大人にも学校が必要です。 うどものときいけなかった人もいるからです。

せんせい じゅうよう そんざい 先生は重要な存在です。

先生にはすべての子どもをうけいれてほしいのです。

●暴力からの自由について ロバート・マーティン(本人、ニュージーランド)

多くの人が「すばらしい所」といわれて施 設に入っているが、実際はそうではありませ

家にいても、家族から暴力を受けている
から

社会にでれば、偏見という暴力にも出会います。

知的障害者には、発言ができないゆえの 場合があります。

さらに、知的障害者を虐待してもかまわないという考えもあります。

支配できると思っている人からの暴力を受けることもあります。

しかし、障害は、人生の一部でしかないです。

誰かから暴力を受けたとき、特別のプログラムに入れられるのは、私たちであるということも問題にしなければなりません。

3. 会議報告: 1) 現地における大会速報

●社会は知的 障 害者のことを忘れているダイアン・リッチラー

(親、カナダ、国際育成会連盟会長)

57 国から 1400 人がここに集まりました。 ここにいる人は、みんなにとって生きやすい 社会を作りたいと思っています。我々は排除 の中で暮らしています。

貧困を撲滅するプランの多くは、知的障 がいしゃ 害者のことを忘れています。

そのたびに「われわれの居場所はどこ?」と聞いてきました。

今こそ、世界のすべての人が、知的障害者とその家族のしている挑戦を知ってほしいのです。有名な経済学者は経済発展を階段を登ることにたとえましたが、いまのままでは、その階段の一段も登れない人がいることを知ってほしいのです。

この会議にメキシコ大統領がきていることは、重要です。

私たちの力とメキシコ大統領の力は、国地にとっても重要でした。

今日は国連障害者権利条約を提言し、まとめてくれたヴィセンテ・フォックス・メキシコ大統領をたたえたいのです。

2000年にフォックス大統領になり、彼の

この6年間の政権のなかで常に障害者の問題に焦点を当て続け、この会議で引退することになりました。

「本当に重要なことは首に見えない」とサン・テグジュペリはいっています。

いま我々は、心でみるという能力でひと つになっています。

この会議は、多くの国でなされてきた努りょく けっしゅう 力の結集です。

発展の段階は国によって違います。

オクダビオ・パスは「他人をみて自分を知る」といいました。我々は現実から逃れられないが、自分を知ることから挑戦がはじまるのです。たとえば、欧州は戦争を経れまするのです。たとえば、欧州は戦争を経れまするとつになりました。平和は、個人を導動、ひとつになります。どのような行動、することから始まります。どのような行動、一シヴな社会をつくることの第1歩になると信じています。

● 障 害者を脅かすものとの闘い (パナマ大統領)

私は障害児の家族として、メキシコ大統領に感謝したいと思います。

私が大統領になる前にメキシコにきたとき、この会議の予定をしりました。

そして、インクルーシヴ社会になるよう、 大敗した国と同じにならないように、注意して進めてきました。フォックス大統領とともに差別排斥と戦うことを誓い合ったのです。



かいかいしき しゅっせき こんどう おやこ のり お ねん と せか い たいかい たの 開会式に 出席する近藤さん親子、規夫さんは 4年に 1度の世界大会を楽しみにしています

本人と家族が、より参加していくことが必 要だと思います。

排斥に直面しているのは本人と家族ですが、これは人間を脅かすものです。私たちは、適切な提案をしなければならないし、社会的にフェアな環境を作らなくてはならない。これは難しいゴールだが、排斥のない社会にむけて脅かすものと戦って行かなければならない。社会の弱点をよく理解し、社会プログラムを促進しなければなりません。

それはコンセンサスを作っていくことであり、権利擁護をする行動が重要です。

●インクルージョンとは「愛情深い文 か れ」である

(メキシコ大統領)

今週、国連全体会議で先住民人権宣言が おこなわれます。今世紀初のすばらしい宣言 になります。この宣言作成には、パナマの大 統領とともに関わりました。 私たちはいろいろな不平等や障壁、偏見 と戦わねばなりません。

そして、いろいろな困難を乗り越えなければなりません。

インクルージョンとは文化であると思います。愛情ぶかいこと、公平な社会のことです。そういう社会を作らなければなりません。メキシコは、長い排除と戦いの歴史を経てきました。

ですから私は個人としても、この活動に強い使命感を感じてきました。

を記している。 などならいです。 などならいです。 みなさんこそが社会を変している。 みなさんこそが社会を変している。 などならいです。 などならいです。 みなさんこそが社会を変しているからです。 みなさんこそが社会を変しているのです。 みなさんこそが社会を変しているのです。

3. 会議報告: 1) 現地における大会速報

★★★メキシコ大会会議短信 (第 2 報) 11 月 8 日 本会議★★★

ことば・ことば・ことば・・・

いよいよ本会議が始まりました。

登困と知的障害。障害者権利条約。親の会の役割。政府の役割・・・。「どうなる?」という他人任せではなく、「こうしよう!」というパワフルで、積極的な発言があいつぎました。

動から夜まで、まさに、ことば・ことば・ことば・ことば・ことば・です。どのことばのうしろにも、 をまるくの日本人が自覚しきれていない、孤立する人々への責任意識と、高い問題意識があり、 心の水平線をぐっと広げさせられた一日でした。 印象に残ることばを集めてみました。

せんたいかいじょう ひんこん しょうがい AM 全体会場「貧困と障害について かぞく おし 家族が教えてくれること」

●平和は与えられるものではない (メキシコ親の会会長)

この南米大陸はもっとも富の不均衡のある
なた。その溝をうめる作業はむずかしい。

平和は与えられるものでない。なぜなら、 世記 正義が支配している社会ではないからだ。 私たち親の会は、この世の中で排除されている人とともに戦うことから始めたい。

そのために、考察し反省して、この世の中を生きやすい社会にするために努力しよう。

●社会の正義は届いていない

∼基調講演「排除と平和」

ビビアン・トリフォス(パナマ大統 領 夫人)

この世の中で、携帯電話やコンピュータなど技術的な革新がすすむなか、まだなにも解決されていないのが、貧困です。極貧問題の解決です。

少数の人はありあまる贅沢の中にいて、
ない。
多くの人が極貧の中にいます。

社会の正義は、そこまでは届いていないのです。

政府は、貧困の撲滅のためにいろいろな計 がくを立ててきました。

なぜ改善されていないのか? 目の前の貧 たんなかりで、その構 医と戦うことに熱心になるばかりで、その構 変うてきもんだい じゅうぶんせき 造的問題に充分迫ることができないできました。

貧困は「排除の子ども」です。「排斥の結

[™] 果」なのです。

●貧困の解決はただひとつ、「参加でき る社会」にすること

ヘレン・ホーランド (ノルウェー育成会会長)

2004年のメルボルン大会で貧困プロジェクトが決定し、(ノルウェーが資金協力して)貧困と知的障害の関連を調査してきた。その結果、「排除には共生を」「不平等には共生を」がありました。重要な第一歩であることがわかりました。重要な一歩を踏み出しまう。みんな同じコミュニティのなかで暮らし、すべての人が参加できる社会にすることこそ、親の会組織の大きな役割なのです。

カルロス・レイズ・マンツオ

(英国・写真家・今回のプロジェクトに参加)

世界に 1 億 3 千万の知的 障 害者がいる その ほとんどのひとが 貧困と排除にく

「だれも ぼくたちのことはみてくれない なぜなら ぼくらはまずしいから」

世界の知的障害者の55%が 一日1ド ルンかで生活している

しょうがっこう そっぎょう ちてきしょうがい じ 小学校を卒業する知的障害児は 5%に 満たない 母親は仕事の機会を失い、子どもには医りょう 療ケアの機会さえない

*家族さえ 排除の論理を もつことがある ちてき しょうかい じ 知的 障 害児は ふつうの人にくらべて エイズにかかる率がたかい

がならが弱く また無知のせいである たゅうかんきょう たる 住環境の悪さと 水の悪さ

まほんてき えいせいかんきょう 基本的な衛生環境がないことが 二重の にようがい 管害になっている

彼らは 対話から排除されており 貧困削 がないまく 減政策からさえも排除されている

家族と本人はいう

「貧困は お金の問題ではない すべてのことから排除されることが、貧困 である」と

貧困は 個人の問題でなく 不平等に対

**
できない社会の無能力の問題だ

かれ たい か きんか きかい もと 彼らは 対話と参加の機会を 求めている

がれ 彼らは 社会の一員になりたいのだ

かれ こうぞうてき へんかく ひつよう 彼らは 構造的な変革を必要としている

それは 排除に取り組む構造的な変革だ

(写真スライド上映のメッセージから)

(以上、文責:武居)

3. 会議報告: 1) 現地における大会速報

●パネル討議のことば・ことば・ことば

「一番ひどい病は HIV でもエイズでもなく、拒絶されること、受け入れてくれないことである」 (マザー・テレサの言葉を消菌)

・人生の質とは (ダウン症のある男性 ※映 像より)

「人生の質は、人並みの能力を得ること だけではない。見返りを求めず人に与える さことが大切である」

・障害児の母の使命(上記の男性の母親 ※映像より)

「(彼は) がかだがだけた一番の贈り物。何かの使命を持って生まれてきたはず。私には (障害や障害をもつ人の生活について) 人に 伝えるという使命がある」

・障害者の権利について(報告者)

「障害者の権利は箱の中に閉まっておく

ものではなくて、生活の中に位置付けていくものである。」

・伝えること、行動すること (報告者 アフ リカの当事者)

「私は貧困についてよく知っている。そのことについて人に伝えることができる。しかし今、私は伝えることをやめ、行動しなければならない。世界を変えるために、計画を立て、行動を開始する時が来ている」

・リーダーとしての自覚(報告者)

全ての人の平等が人権の達成につながる。 よって、人権は知的障害者だけの問題ではない。人種や職種を越えて、あらゆる人にスポットが当てられるべきである。が人にスポットが当てられるべきである。を論、障害者の親にも。組織化を目指し、行動しなければならない。世界はインクルージョンに向けて変わりつつあるが、それ



なんかかい はつげん 分科会で発言する館森さんとスペイン語で支援している佐宗さん



グループ討議に参加する小地さん "支援者には手伝いすぎないでほしいと言いたい" と発言

でもやるべきことはたくさんある。私たち(障害のない人)は障害のある人の能力に対してずっと無知だった。今後、どんな社事ができるのかなどを知り、政府へ技術的支援を含めて積極的に働きかけをするべきである。あらゆる人がリーダーとしての自覚を持ち、当事者一人一人の声を吸い上げ、それを action に! それこそが challenge である!

で くれんしょうがいしゃ けん り じょうやく
・ 国連 障 害者の権利 条 約について (報告者、
およ かいじょう しつぎ おうとう
及び会場の質疑応答より)

権利条約は強制的ドキュメントである。 今後、各国の連携の下に人権対策の実施やモニタリングを進めていくこととなる。つまり、具体的な人権対策が義務として各国に課するととなる。しかし、現時点では超れることとなる。しかし、環境時れなかったが、対策的な監視は全体の賛同を得られなかったため、まずは条約を批准した国で先駆的にでが、まずは条約を批准した国で先駆的にでする。ととなった。ただ、障害種別などであり、こととなった。ただ、険害種別などがありこととなった。ただ、険害を別などがありますが、徐々に統つさ



インフォメーションデスクに座る坂井さん(右)、小長谷さん(中央)、阿佐野さん

れてここまで漕ぎ着けたことは大きな進展といえる。参加者それぞれが "inclusion"、つまり "共生" について考え、文化を超えて がなが まり など ではまか ではまか ではまか である。 かたち となっている。

このような権利条約は、障害のあるあらゆる人の便宜を図る出発点となる可能性を十分に秘めている。人権の条約以上に大事な条約はなく、そこにはコミュニティでの会生活を見据えた教育やヘルスケアなどが含まれる。今後、各国の言語に翻訳されることになるが、その際"自分の人生を自分で決める"ための支援を各国に義務付けるようにしなければならない。

(以上、文責: なか)

★夕方の「日本とメキシコ親の会との交流 ☆」は、150名を超える大・大・大集会 になりました!!

3. 会議報告: 1) 現地における大会速報

★★★メキシコ大会会議短信 (第3報) 11月9日 本会議★★★

きょういく **教 育におけるインクルージョン**

会議は3日目に入りました。主催者と参加者の共同作業がふかまり、会場は一段と ない。 かいではういちだんがいている。 かいではういちだんがいている。 かいではういちだんがいる場は一段と

今日は朝から何度か停電があり、フロアは 素し暑い暗闇になりました。停電はメキシコ では珍しくないとのこと。みな騒ぐことなく 平然と暗闇を歩いたり、会話を続けていまし た。(さすがに明かりが戻ったときは歓声が あがりましたが)。

一番の被害者は、シンポジウム進行役のゴードン・ポーターさんでした。彼が用意していたパワーポイントはコンピュータが使い物にならなくなりました。しかし彼の話に、会場は釘付けになりました。

インクルージョン (教育) とは、大きくいえば養護学校や特殊学級はもうやめようという方針です。しかし、彼は、その根本にある考えを静かに語りました。

「子どもの障害に焦点をあてる時代は過去のもの」「困っているのは子どもではなく、数量の方である」「子どもを特別処遇するのではなく、学校の創意工夫を支援せよ」。つまりインクルージョン教育とは、これまで

の特殊教育のパラダイム(視点、思想の枠 ないでした。

(文責:武居)

●インクルージョン教育とはなにか? ~教育の質と平等性

ゴードン・ポーター (教員・カナダ)

私の教員歴は 40 年になります。そういうとみな驚きます。もっと若くみえると言ってくれます。でも赤い服をきたらサンタクロースに見えるでしょう (注:丸顔に白い髭、くりくりした瞳に大きな太鼓腹の紳士でした)。

うまくいかない生徒がいると、教員はこう考えてきました。「彼はちゃんと勉強していない」と。

実際はそう単純ではありません。「勉強ができない」ということの背後には、生徒の能力の問題、生徒の家族の問題、生徒がうけている性別への期待の差の問題、生徒の宗教の問題、生徒の意欲の問題・・・と実にさまざまな社会的影響があるのです。しかし、実際は「できない生徒」というモデルで

見られているだけなのです。

しかし、先生たちの 15 %は別のモデルを 思いついています。「おそらく自分たちのや り方がうまくいっていない」と。そう考える 性性は、自分の戦略を集中して考え、別の 方法をやってみるなど、いろいろな工夫をし ています。

先生には大きな問題があります。先生はほかの先生の支援を受けられないのです。サッカーでもゴルフでも一流のプロには、コーチがいるでしょう。同じように先生にも、よいコーチやトレーニングが必要なのです。しかし、現実には先生たちは、初任時代からひとりで仕事をしているのです。



ゴードン・ポーター氏

です。

担任の先生が「この子には教えられない」といえば、この特別のモデルが当てはめられるのです。しかし、それは特別の環境を用意できる豊かな国でのみ可能なモデルでした。このモデルによって、貧しい国では障害児を教育することは達成困難な課題になりました。

では、 できょういく あたら できまういく あたら できま児 教育の新しいモデルとは、何でし

インクルージョン (inclusion) の日本語訳について

- ◆本書では、インクルージョン inclusion (名詞) の日本語表記をあえて統一しませんでした。 辞書には「包含」「包括」「算入」「包摂」「含有物」等と記されていますが、そのまま日本語 表記を統一して訳してはどうにも文になりません。文章では「共生」「包み込む」「統合」あ るいは「排除しない」という表記をいろいろすることにしました。
- ◆同様に、エクスクルージョンexclusion(名詞)の日本語訳も統一しませんでした。辞書には「(~からの)除外」「排除」「追放」「排斥」「締め出し」「(細菌等を)防ぐこと」「考慮にいれないこと」等とあります。おもに「排除」「排斥」「社会的疎外(家族は受け入れいるのに社会が受け入れてくれないニュアンスを込めて)」などを用いました。
- ◆蛇足ですが、「インクルージョン」という言葉は、知的障害者が「エクスクルージョン」されている状態を変えていく意味で反語として使われるようになったと思われ、知的障害者の歴史を物語る言葉と思われます。(武居)

3. 会議報告: 1) 現地における大会速報

ょうか?「この子には教えられない」といったとき、子どもの障害に焦点をあてるのではなく、先生や学校や社会の創意工夫に焦点をあてるのです。

いまこの会場に英語のわからない人がたくさんいますが、その人たちが席を同じにしていられるのは、イヤホンをつけているからですね。英語がわからないことに焦点をあてるのではなく、アプローチに焦点をあてるのです。

生んせい まいしん がくしゅうのうりょくひょう かほう 先生は、最新の学習能力 評価法について知るなど、いつも自分の知識のアップデイトを図る必要があります。

パワーポイントに図にしていたのですが、 聞いてください。インテリジェンス(認識) は言語だけではないのです。視覚的、数学的、 を必ずくてき。 発力したいてきまったがくてきますがくてきますがくてきますがくてきますがくてきますがくてきますがくてきますがくてきますがくてきますがくてきますが、大きないい、身体的と多元的なのです。これをマルチ・インテリジェンスといい、いろいろなパターンがあるのです。

同時に、先生は、自分をとりまく様々な資源を理解する必要があります。

先生が子どもの人権の問題を考えることも 重要です。インクルージョンの障害になる ことがたくさんあるからです。

学校は、生徒に学校に適応する義務を求めます。すると、生徒がうまくいかないなら養養学校に送るということを不思議に感じなくなります。

しかし本当に必要なことは、学校に適応する義務を課すのではなく、適応する援助を 満え、これを何度も試してみることなのです。 もしあなたが 200 席あるがさな映画館の オーナーで、車椅子の人が来たらどうしますか? 200 席あるけれど、車椅子が入ると ころはありません。うしろに車椅子用のスペースを数席用意することは大変ですか?た

と言われたら、それは大変です。断るしかないかもしれません。しかし、数席ならできるはずです。

しかに 50 台分の車椅子のスペースを作って

だいいのです。「この子どもとは、付き合うことができない」という先生がいたら、子どもをどこかに追いやるのではなく、周囲の協力を求め、付き合えるような工夫をすればいいのです。

ソーシャルキャピタルとは、お互いに関わり(つむぎ)あってできあがっている一枚の

常に似ています。それは、社会的ネットワークによってできあがっている COLLECTIVE VALUE、つまり多元的な価値の集まりなのです。その価値群とは何でしょうか。

みなさんは、ダイアモンドの粒が目の前に 散らばっていたら、ひとつひとつを丁寧に数 えるでしょう。人もひとり、ひとり丁寧に 扱うべきなのです。

みんなと同じように、障害児はとくに社 たいしょん ゆっょう 会資本が必要なのです。

障害児はどこでそれを手に入れたらよいのでしょう?子どもたちは、教室の中で、みんなと同じ地域の学校に通いながら社会資本を得ていくのです。そう、子どもたちの社会資本の獲得は、学校時代からはじめるのです。インクルージョンは例外なくすべての子どもたちに届くべきです。

私たちの大好きな子どもたち、すべてに届かなくてはなりません。そして、これを実現している学校は、一流の学校といえるのです。私は、子どもたちが特別のニーズのある子どもであることは否定しません。でもインクルーシヴ教育は、まず公教育で率先して試み、実現したいと思っているのです。

●私を判断する人は、私を知らない人 ミア・ファラー (ダウン症、レバノン)



ミア・ファラー氏

私は、みなさんと同じように、学校で互い に尊敬することを学習しました。

アメリカの学校では、みんなと同じ学校にかました。

16歳でレバノンにもどりましたが、普通
がつこう わたし にゅうがく みと
学校は私の入学を認めませんでした。

すると、ともだちと映画にいくことさえ、 できなくなりました。

私が問題なの?違う。先生がわからないのが問題なのです。

私を見て、すぐに判断する人は、私をしらない人です。

ヒょラがヒ 障害をみて、私を見ていない人なのです。

ロー・マスト・インクルード・ミー

(普通の人に適用されるように) 法律は、 なたし ない 私を含めなさい!

きょういく 教育こそ、わたしの人生の土台なのです。

3. 会議報告: 2) 日本からの発表

11月7日 分科会 社会へのインクルージョン促進における高等 教育以降の役割

とうきょうだいがく ちてきしょうがいしゃ こょう東京大学と知的障害者雇用

とうきょうだいがくだいがくいんけいざいがくけんきゅう か とくにんじょきょうじゅ 東京大学大学院経済学研究 科特任助教授 せんにほんて いくせいかいこくさいかつどう い いんちょう なが せ おざむ 全日本手をつなぐ育成会国際活動委員長 長 瀬 修

11月7日に「社会へのインクルージョンでは、こうとうぎょういくできなり」という分科会で促進への高等教育の役割」という分科会で動務する東京大学での知的障害者雇用に関する報告を行いました。

まうきょうだいがく しょうがいしゃ こようそくしんほう じゅんしゅ 東京 大学は障害者雇用促進法を遵守する ために、2005 年度から知的障害者雇用を 開始しています。

2004年4月に国立大学は法人化されました。それに伴い、各国立大学は従来のように文部科学省管轄下の公務員として一括で、各国立大学は従来のように文部科学省管轄下の公務員として「個別の大学として雇用率を計算するのではなく、個別の大学として雇用率を計算することとなったがです。しかも、教員と医療職員も雇用率は1.46%と、対象となるという変化も生じ、そのために、2004年6月時点の実雇用率は1.46%と、2004年6月時点の実雇用率は1.46%と、規定の2.1%から大きく落ち込んでしまいました。その後、法律に基づいて、2007年末までに雇用率を達成する計画を策定し所轄ののよりに提出しました。

学内では①障害学生支援、②障害教職 当した。 量支援、③障害者雇用を担当する「バリアフリー支援室」が雇用率の達成に向けての取り組みを開始することとなりました。支援室 は副学長・理事を室長とする約20名の各部局の代表者から構成される政策決定機関としての性格と、5名の専任職員からなるが、業業が、前間という性格と両方を持つています。私は、このバリアフリー支援室が正式に発足した2004年4月当初からの室員であり、2006年4月からは、アドバイザーも兼ねています。

その関係もあって飯田橋ハローワークに足を運び、いろいろと障害者雇用推進に関する助言をもらいました。まだまだ取り組みが遅れている知的障害者雇用をそこで勧められました。しかし、当初は具体的にどういうがなちずがあればいいのか見当もつかない状態でした。

程済学部はそれまで障害者雇用の実績が ゼロでしたが、バリアフリー室員の松井彰彦 教授の提案で、東大として初の知的障害者



雇用を実現したのです。すきっぷから紹介された方が、実習を経て経済学部に職員として採用されたのは、2005年11月でした。研究論文の入力作業など主にパソコンを研究論文の入力作業など主にパソコンを使う業務です。次に同じ経済学部の事務の別の部門で2006年2月に二人目の知的障害者の採用がありました。こちらは、郵便の仕事です。

さらに 2006 年 4 月には、施設部保全課が環境整備チームを発足させ、10 名の知的障害者が雇用されました。本郷キャンパスの清掃と理学部図書館の蔵書への IC 夕グの貼付を担当しています。また、同年 6 月には教養学部が図書館の仕事でさらに 1 名雇

用しました。東大には全部で13名の知的 障害職員がいます。

学生と、新たに東大に加わった知的障害 職員の交流も行っています。私が経済学部で開講している「障害学」の講義の一環として、環境整備チームをゲストとして迎えたほか、学生が知的障害職員の指導のもと、「清掃実習」として半日、清掃作業を行いました。学生にとって、知的障害職員と一緒に仕事をする貴重な機会となりました。

東京大学は引き続き「多様性増進」と しようがいしゃ しょくいきかくだい を基本方針として、知 で管害者の職域拡大」を基本方針として、知 できしようがいしゃ ふく しょうがいしゃ こよう 的障害者を含む障害者雇用に取り組んでいます。

3. 会議報告: 2) 日本からの発表

11月7日 分科会 家族の運動の将来と兄弟姉妹の役割

ゕ ぞく ゕ ぞく 「家族が家族でありつづけるために」

またこくしょうかいしゃ 全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会 河 村 真千子

●全国 障 害者とともに歩む兄弟姉妹の会

"ひとりだけで苦しむのはよそう、ひとりだけでぼそぼそ言うのはよそう、なぜならそれは皆の苦しみなのだから、

生きていて本当に良かったと、きょうだいと障害者がともに言える社会を創ろう!"

この呼びかけがきっかけとなり、きょうだいや応援者が全国から集まり、1963年に「全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会」ができました。

● 障 害者のきょうだい

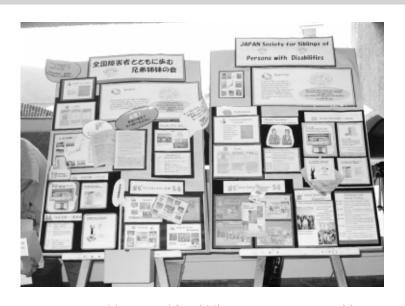
しょうがい 障害のある人が人生の各ステージごとに もんだい 問題があることと同じで、きょうだいも少な からずその影響を受け、各ステージごとに もんだい かか 問題を抱えます。

大部分の親は子供に障害があると言われると、戸惑いの中で時間が過ぎてしまいます。 障害のある子供のことで気持ちが一杯で、他のきょうだいに目を向ける余裕がなくなることも多いでしょう。

きょうだいの多くは幼いころからさびしい 思いや、幸い思いをすることがあります。偏見やいじめを受けたり、障害のあるきょうだいとの関係や将来のことを考え悩んだり、 はなさき後に障害のあるきょうだいとどのように関わっていけばよいかと悩む場合が多いです。 ます。実際、親が亡くなると、在宅でも施ります。「保護者」とみなされる場合が多いです。



まょうだい しまい かい かいいん 兄 弟姉妹の会の会員





●きょうだいの会の方向性

きょうだいの会は、障害のない自分の課題とともに、障害のあるきょうだいの課題の解決を目指して活動しています。障害のないきょうだいが安心して生活するためには、障害のあるきょうだいが自立して生活できることが必要です。そのような環境が

整ってこそ、互いにいい関係を作ることができます。そういう意味で、障害のある人の がからない。 活動と方向が一致します。

多くの福祉・教育関係者、何よりまだきょうだいの会の存在すら知らない多くのきょうだいたちに、きょうだいの会の存在や意義・活動内容等知ってもらいたいと思います。

3. 会議報告: 2) 日本からの発表

11月8日 第19分科会 セルフ・アドボカシー

ステージ新聞について

ステージ編集委員 小池 美希

●ステージ新聞の発表 準備

ステージ新聞の準備は、岩本さん花にされる花崎さん赤木さん私の4人で展示用、発表用をパワーポイントで作りました。その前にステージの打ち合わせの時に今、現在の編集員の本人のみなさん、毎日新聞の野沢さんたちの意見も聞きました。そのあと赤木さんと私でぞれぞれにステージ新聞についてどんなこと

を何を伝えたいか?考えてもう一度 4 人で を何を伝えたいか?考えてもう一度 4 人で をつて私と赤木さんが同じ内容の所は、一つ にまとめあとは、パワーポイントの画面を見 ながら、文を合わせて作りました。

パワーポイントの最終のまとめは、岩本さんが作ってくれました。

最後に今までのステージ新聞の中でぞれぞれに心に残った新聞を考えました。



^{はっぴょう} 発表をする小池さん、赤木さん、支援者は花崎さん

きんちょう はっぴょう **緊張した発表**

ホテルの部屋で当日までに読む練習をし ました。でも練習なかなかうまく言えなか ったりしました。

本番は、大丈夫か?心配でしたが、緊張 は、しましたが、うまく言えてよかったと思 いました。

ステージ新聞の発表も大成功に終了した のは、今までの新聞に協力してくれた毎日 新聞のみなさん、編集員のみなさん育成会 のみなさんの応援があったからと思っており ます。

会議中の本人参加への配慮①

大会プログラム(印刷物)での告知

大会プログラムの分科会紹介の欄に、以下の2種類のマークが置かれており、 参加しやすさの指標として活用された。

アンダスタンド・ マーク(緑色)



- よみやすい資料
- シンボルや絵の使用。
- 専門用語を使わず、ゆっくり話す。
- 聴衆とやりとりしながらすすめる。
- 聴衆の「3色カード」に対応している。
- 質問に時間をとっている。

イエローロゴ・ マーク(黄色)



- よみやすい資料
- ゆっくり話す。
- 「3色カード」に対応している。
- 聴衆とやりとりしながらすすめる。

手話

全体会場では手話通訳がある。

A PERALINAAN PERALINAAN PERALINAAN PERALINAAN PERALINAAN PERALINAAN PERALINAAN PERALINAAN PERALINAAN PERALINA B DEPATERAN AEPATANAN AEPATERAN AEPATERAN AEPATERAN AEPATERAN AEPATAN AEPATAN AEPATERAN

3. 会議報告: 2) 日本からの発表

11 月 8 日 第 19 分科会 セルフ・アドボカシー

は はつぶたい せかいかい ぎ 晴れの初舞台~世界会議・メキシコ大会

ステージ編集委員 赤 木 祐 子

が日まで、メキシば初 7 日まで、メキシば初 7 日まで、メキシば初 7 日まで、メキシば初 5 日まで、メキシば初 5 日まで、 10 日ませんでした。 10 日ませんでした。 10 日ませんでした。 10 日本 10

科会になり、テーマ前での発表がありました。私と小池さんの2人は、ステージ新聞の発表という重要な役になってしまいました。2人での発表でステージ新聞の内容と印象に残った記事を話すことでした。

があって作ってもらった原稿を、ホテルの 部屋で読みあわせを何度も繰り遊して練習 しました。その発表は2日目の午後の後半でした。会場が急に変更になり、あわただしかったでした。小池さんも必死になって練習していました。私は読むことに関しては、「質していました。私は表むことに関しては、「質しても問題ないと思っていました。私たちのなるが一番最初だったので、ドキドキしま



スモールグループでの討論に参加する赤木さん(右から2人目)



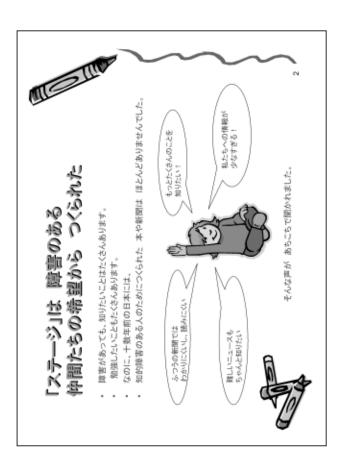
¤∍ʊょぅ 発表のあとオーストラリアやニュージーランドの人にインタビュー

した。そして、いざ本番!発表をしたとき は、緊張することもなくハキハキとした声 で、読み上げることができました。本番にな ると強くなる心が出てくるんだと感じていま した。2人で発表することが初めての経験 になりました。私たちの他に、オーストラリ アと大阪のグループの発表もありました。 どこも素晴らしい発表だと思いました。オ ーストラリアの発言者の方にインタビューす ることができました。オーストラリアでも、 ました。世界各国でも障害者向けの新聞を だ出して欲しいと思っています。会議3日め は、前日に急きょ頼まれた決議案の打ち合わ せに出ることになってしまいました。そこで、 world また おこな きょうぎょうごう ば けっ 会式の前に行われる協議統合の場で、決 デッシム ヒッワ゚ッラ 議案を発表して欲しいと言われました。ま さか、こんなことになるとは思わなくてびっ くりしました。だけどその日の昼過ぎから、 おなかの調子が悪くなってしまいました。 とつぜん 突然のことになって、痛みが出てしまい、そ

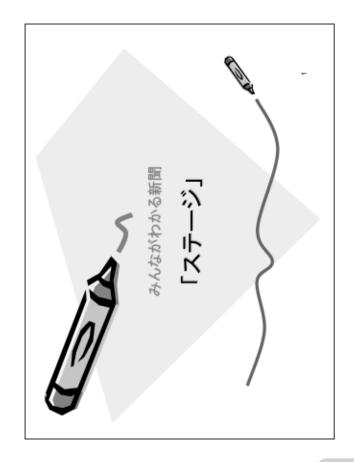
の日は寝込んでしまいました。薬を飲んでからは落ち着きました。すごく辛かったでした。 すごく辛かったでした。 おなが会 着きました。すぶはなり日でした。 おなが会 が 着 りました。 一般には、決議案の発表の発 した。 上度も舞台に上がることは、ありました。 一般によいないります。 少し繁張したけど、 何事もなくスムーズに言えることができました。

この4首間の世界会議で、世界の人たたと神良くなれました。特にポーランドの人たちを神良くして、日本語を教えてあげました。 ちと神良くして、日本語を教えてあげました。 が過れたのにも関わらず、なんとが初れたのかなあとができたと思います。 を表えることがんばれたのかなあとれては、 はしては、 はい思いはなりました。 ました。 が聞のよさをもって発出いるというな新聞が広まっています。 そして、 こんな新聞が広まっていまりよりが聞にしている新聞が広まっていまりよりが開にしている。 また機知のたら参加したいです。 を放かあったら参加したいです。

3. 会議報告: 2) 日本からの発表

















3. 会議報告: 2) 日本からの発表









8ページ(わってみない) カラー国 単等地の産業制度ないなられた ドナンジになったが、 ドナンジになったが、 戸屋と女権も存在した。

ME

ーパサソーン・

5

・吹きガラス ・性について考えよう

など、 いろいろなところに行ったり、体験しました。 性については、はずかしかったけど、 脂強になりました。

かったみよいた何々なことを体験できるのは スケーン教室になって 業してことのひとつです。





この本をしかって勉強しました。

●心に残った取材や記事1(赤木祐子)

障害のある人の命~高坂さんの裁判について

1990年8月、パリでかった回路を描しまかしていた声気 (30を44'2000年3月 29日、最いていた工業の中放でECなった。 パリ連節の味・日本でおり提集者の本人の創じなら返りを立ち上げ上第一人者 でおき。

新聞はフェーカー内に入ることの意識を含すが11度をできずに中途主義な影響 でなった。実験ものがなのを発していたなった。ののであればいた。 とカーンは、日本では1987年末月、日本の場合を開放機能が最大の動していたが、 そのかでは、日本では1987年末月、日本の場合を開放機能が構造が関していたが、 その会社では当日本の場合をでいたので、必要は多数を表現に関われていた。

世界でひとつだけの

器をつくろう

サインを行う機関が参した。素金特権有難能が関いたい気からながら、資金指針を設定を提供機関を受けない。

別は、いんな事が目標がないように会れる会社に状会を主管部をしたた後にも無いていたが、そのに、対象を含むしました。そのに、対象を含むしました。

これ以上、仲間を失い他のない事を強く言いたいです。



●心に残った取材や記事3

・虚待の話



報差 存さんという人がステーンを指数の金額に参加して、2004年12月に関連機構をの基準的はプリンのことを超して代表して、回避の対解を向上・ジージングのロバー・マー・ゲンなんの対解も高やしました。

国達での発言の一部の中に「産物をやめてください。」 があります。本当に産物はしないではしいですね。

ステージ新聞をこれからもたくさんの方に見てもらえるとうれしいです。







●心に残った取材や記事2(小池美希)

・、ソセン病の容さんの話

くソカン後の逆(ロガギ)かろの種の大格電行にか、超り形態を考した。

インカン酸が細心酸解は、本の一部が40円にも形が減むったりまりを整成し、 単元、上の40倍が30分と小細がちゃのたが上半年を発展に関いているがないがある。 日本ののためには、一般、一般が下めたりには、 一般、 国かたものになります。

からに難い者気の人の甘悶や亡くなった人の文群末で複数の職員ではなく、からされていたようです。

国は、長い国衙図に類に込めていたに対こついて、ハンサン解の人がもに開発しました。 中の人が大きに関係していた。 中は、解散から出されるようになったけが年を取ります。 いるのと解説のよかは高から対には、なかなか様に 非なん。兼照に確認からまれた単独をしたには、なかなか様な、 をしているのとは、ほんの

3. 会議報告: 3) 全体会報告

かいかいしき

まかい し しょうがいしゃこうせいそうだんじょ もり しげ き 堺 市 障 害者更生相談所 森 繁 樹

今回の大会の会議場で、またではは近面で アカプルコのホテルに着いてまず驚いたのは その警備の厳重さでした。ホテルに入るの に空港と同じ様な身体検査が行われていま す。その後の参加登録の受付等は列もが会議場 でしたいけんです。翌日の会議場 でしたいけんなかった。 なが行われていま での違いにはびっくりです。翌日の会議場 に入る際にも会議場前で昨日以上に厳重な に入る際にも会議場前で昨日以上に厳重な すがに世界大会は違うなぁと思いながら、メ ルボルンではなかったよなぁと疑問もありま した。

会議が始まる少し前にインクルージョン・シーコーロッパで使っている、ハガキより少しかさめの緑、黄色、赤のプラスチックがそれぞれ一枚ずつ配られました。その利用の仕方についての説明がありましたが、インクルージョン・ヨーロッパが行なうあらゆる会議や、コン・ヨーロッパが行なうあらゆる会議や、はいずです。参加者全員がこれら3枚のカ

ードを持っています。発表者は今自分の結話している内容について会場の参加者が理解してくれているのかという不安があります。 かかかかかかかかかかかかかかかが表表者できないという時に出します。 「単語がわから言うない。内容が理解できない。解りやすい言葉に直してよ!」などでしょうか。それを見た発表者は1,2分の間、発表を止めます。 た発表者は1,2分の間、発表を止めます。 た発表者は25なられます。 それによって発表者も発表内容を改めて整理する時間が与えられます。

黄色いカードはどうでしょうか?このカードは発表者のスピードが早い時に使われます。「早口で言っている内容に追いつけない。もう少しゆっくり話してよ!」それを見た発でようしゃな話す速度が落ちます。参加者は発表の内容を理解する時間ができるのです。

それでは青いカードは何のためにあるのでしょうか。「そのままでいいよ。続けて下さい」という意思表示です。

その後各分科会ではそれらのカードが実際によく利用されているのを目にしました。発 ではうした。はなくち、つうでくした。つうでく 表者が早口で通訳者の通訳がついていけないだけではなく、母国語でも早すぎて理解で きないような時には、当然のように会場全体から黄色いカードが出されます。確かにしばらくはゆっくりしたペースになるのですが、すぐにまた早くなってしまうとまた黄色いカードが出されます。中には赤いカードを出している人もいました。

当然参加者の中からは青や、黄色や赤が混ます。それは仕方がない事と思いますが、全員に解ってもらうようにだと思いますが、全員に受けてしょうし、なから、する心が構えはです。これが必要でしょうし、なカードを出すのであれば抵抗が少ないの意見をみんながを出するか。私見ですが高分の意見をみんながらかい。私見ですが高分の意見をみんながられるというささやかな経験が一つなが、でくれるというささやかな経験が一つではないからされるというささやかなど、そのではないかと思い、これからの会議であってはないかと思い、これからの会ががあるからからしまりではないからからなるなると感心しまりでした。

プレ会議では最初から世界各国の当事者による意見発表がありました。その中には「家族の運動の将来と兄弟姉妹の役割」についての発表もありました。発表者はザンビアの人でしたが、ザンビアでは大家族で生活しており両親、兄弟、叔父、叔母までも含む事から家族の役割も当然日本とは変わってきます。

意見発表が終わった後で、なぜそれほどまでに警戒が厳重であったのかが解りまし

た。

かいかしま。 開会式にメキシコ大統領夫妻とパナマ大統領夫妻とパナマ大統領夫妻がこられたからでした。メキシコ大統領の挨拶は障害者、女性、先住民等のあらゆる差別を撤廃する措置をとった事にとどまらず、移動や、就労、学校に行くため、**などのなど色々な偏見と戦う努力をすることで平等な世界を作っていこうという内容でした。

まだまだ排除はあり無くなったわけではないが、排除をなくしていこうと努力しなくてはいつまでたっても無くなるわけではないし、嘆いているだけでは何も進まないという

3. 会議報告: 3) 全体会報告

はじ こくさいいくせいかいれんめい せ かいたいかい さん か 初めて国際育成会連盟世界大会に参加して

パナマ大統領 夫人の講演から考えたこと

社会福祉法人 麦の子会 古 家 好 恵

11月に行われた第 14 回世界会議メキシ コ大会に三塚勇太さんと共に参加しました。 みつつか ちてきしょうがいしゃつうしょこうせい しせつ 三塚さんは知的 障 害者通所更生施設ジャ ンプレッツに通所していましたが、2 年前か らジャンプレッツの就労支援の店のスワン カフェ&ベーカリーでパートで働き、同じ社 かいがく しほうじんむぎ こうかい ちてきしょうがいじつうしょ しせつ 会福祉法人麦の子会の知的 障 害児通所施設 むぎのこで用務の仕事やホームヘルパーとし て障害児の入浴などの介助をしています。 4年前オーストリア・メルボルンでの第 13 かいたいかい さんか きたがわそうごう しせつちょう ほんにん 回大会に参加した北川総合施設長から本人 ^{さんか} 参加として三塚さんに声がかかり彼は真面目 に働いて貯金をして参加しました。三塚さん は3年前にお母さんを亡くしました。弟は ホヒな ほうじん 同じ法人のグループホームを利用して日中 はジャンプレッツで過ごしています。そして いもうと そうごう しせつちょう ぎとこ 妹 は総合施設長の里子になり、むぎのこデ ィサービスを利用しています。2人の弟妹 の兄としても明るく頑張っている三塚さんで す。そして、花崎さんのご尽力により三塚 さんのパネル写真を会場に展示させていた だきました。わたしははじめての参加で、本 ĸん かたがた せっきょくてき ぎんか 人の方々が積 極 的に参加していることに感

動しました。 又今回の参加を通して、国際育 成会連盟が、国連が認める障害分野の最大 のNGO(非政府組織)と知りました。8日 の初めのプログラムは親であり、今大会の名 まかいちょう 誉会長でもあるパナマ大統領夫人の基調 こうえん ぴんこん はいじょ へい わ 講演『貧困、排除、平和』でした。要旨をま とめますと次のようなことだと思います。 【この世の中で、技術的な革新がある中で、 gr かいけっ 何も解決されていないのが、貧困です。少 数の人があまりある贅沢にいて多くの人が極 がなった。 変形は、 貧困の為の計画を立て ましたが、目の前の貧困と戦うことばかりで こうぞうてきもんだい じゅうぶん せま でき まません 構造的問題に充分に迫ることが出来ません でした。貧困は排除の結果です。家庭の中に も排除(エクスクルージョン)があります。 排除は家庭の中にある、障害のある子ども を家族が排除してしまう、だから家庭の中か らインクルージョンしていかなければなりま せん。(親としての言葉の重みを感じました。) それから、取り組みが報告されました。障 がいしゃ 害者は、社会的に貧困におかれている。 障 mole かた しぇん 害者の方に支援することを全ての政府機関に ッ゚゚ セ゚ッ゚ 義務付けます。全面的に法規にのっとって



メキシコとの交流 会にて りません ロードを持つ三塚さんとメキシコ在住で通訳を手伝ってくれた古家さんの娘さん(左から4人目)

プレ会議 宗教のはたす役割 11月7日

きょうせい (インクルージョン)を進めるために、

しゅうきょうだんたい は やくわり 宗教団体が果たす役割!

ふみ文 とも智 東京都育成会ゆうあい会 楠

●まざまな信仰、宗教組織における共生 (インクルージョン) のビジョン

^{๒๒ๅ รู}นั้งเ 中南米やアメリカ・EU の話を聞いて、 大切なことは宗教団体が何をすべきかより も宗教団体がともに何を担うべきかが、問 われているものであります。

この分科会にはイングランド、パナマ、メ キシコ、フィリピンなどからの参加があり、 イスラム教、仏教、ヒンズー教の人とどう ゃっていくのかも話題になりました。パナマ の脳性マヒの人からの発言では、自分の意見 を言うと修道女にいじめられたというのも ありました。こうしたなかにも差別があるの です。

しんどう ぶっきょう 神道・仏教・キリスト教・ユダヤ教・ ヒンズー教・イスラム教徒の共生

しゅうきょうだんたいぜんたい かだい だんさ すく しん 宗教団体全体の課題は、段差の少ない神 でんしていん せいどう きょうかいどう な やし、 事椅子 の人々でも神社への参拝やお寺への参詣と聖 どう。きょうかいどう れいはい しんでん 堂や教会堂への礼拝や神殿へのお参り、モ スクでメッカへのお祈りができるようにする ことです。

そのためには、車椅子の人々でも入れる トイレや車椅子専用のエレベーターと車椅 すせんよう かいだん のぼ くだ せんよう 子専用の階段の上り下り専用リフトを設置す ることや広い入り口と段差のない床にするこ とです。

このように、車椅子や将来の高齢者社会 へ配慮した、取り組みを進めることが共生 (インクルージョン)を進めるために宗 教 きると思うものであります。

そして、これらを全て実現に向け解決した ときに初めてここで、宗教団体が共生(イ ンクルージョン)を進めることができるので す。



ポスターを展示する舘森さん(中央)と楠さん(左)。相 ^{たん} 談しながら、どのように展示するか考えてくれました。

11月7日 プレ会議 社会へのインクルージョン促進における高等 教 育の役割

ちゅうとうきょういく い こう 中等教育以降のインクルーシヴな きょういく 教育について

- しゃかいふく しほうじん かい きの した つよし 社会福祉法人さざんかの会 木 下 剛

この文章は、中等教育以降の(この中 ヒラタサルウルビル ニラ 等 教 育以降というのは高校卒 業 後との意味 だそうです)インクルーシヴな(共生、包 括的との事ですが、"だれもが当然受けられ るべき"くらいの意味だと思います) *教育 (Inclusive Post – Secondary Education 以下 IPSE と略します)の可能性についての がかかい ほうこく 分科会の報告です。3 組のパネラーが発言し そのうち1名は東京大学の長瀬先生による ものです (長瀬先生のご報告に関しては、先 生ご自身の原稿にてご発表とのことですの で割愛します)。後の2人ですが主にカナダ のアルバータ大学での取り組みについて書き たいと思います。実はその場ではわかった気 になってうんうん聞いたのですが、書くにあ たってうろ覚えのところがあり、時には誤解 している部分もあるかもしれませんが、ご ^{りょうしょうくだ} 了 承下さい。

カナダではアルバータ大学のほか 12 の大 がく で IPSE を 20 年前から導入しています。 この制度は、重度の障害 (重度という言葉 の定義が各国で違っているような気がします。 す。確かにダウン症の方や車椅子の学生が ができず 活動している映像が発表で流れたのですが、 たし じっさいせつ ちてきしょうがいしゃ かたがた 私が実際接している知的 障 害者の方々より 意思の伝達がずっと可能な方だと思われま す。重度とはいっても全ての知的障害者と いうわけではないようです)を持った方々に も対応できるようになっているそうです。大 がく つうじょう がくせいどうようふつう じゅぎょう しけん 学では、通常の学生同様普通に授業、試験、 実習等に参加するのですが、学習する際に が要に応じた対応・・・教 授陣も分かりや すい授業を組み立てるだけでなく、分かり やすい教材を使用し、ピアの方もしくは卒 ぎょうせい 業 生がサポーターとして学習を助けてくれ る・・・を採っています(実例の映像では、 電別に取り組んでいるケースは先生と障害 よ。 者もしくはピアと障害者というパターンで した。50人くらいのクラスは一般の人 mule ま 害者が混じっているか、逆に上記のような ペアがほとんどなのかは分かりませんでし た)。また割合が不明なのですが、一般の授 しくは単位の付かない形のみで参加している ot 人たちも含まれているようです。多くの方々 そっぎょうこしゅうしょく じぶん まなが 業後 就職し、自分が学んだことを活

かしているそうです。その他授業だけでなく、クラブ・レクリエーション活動や社会参く、クラブ・レクリエーション活動や社会参加を促していて、発表の中での映像では、発表の中での大たちもしくは理解あるスタッフの手伝いを受けながら、アイスホッケーやバスケットボールで選手として活躍する方、吹奏楽団に入り鐘をたたいている方等の姿がが見られ、仲間作りも含め実に生き生きと活動をでは、体情間にないました。

リバプール大学の取り組みとして印象に のだっていることは、障害を持った方々が講 養を行うことがあるそうで、「障害者につい で語れるのはわたしたち障害者だ」という

きいこ こんかい たいかい きんか とま かん かん とま かん して感じた ことですが、いろいろな原因はあるでしょう が、特に日本は制度等が整いすぎていてかえ って自由な発想ができなくなり自分たちで可 のラセピ しぽ 能性を縛ってしまっているのではないか、そ の閉塞性のようなものを強く感じました。も ちろん私が見たのはほんの氷山の一角で貧 こんもんだいとうくる 困問題等苦しんでいる人たちは多いはずです が、本大会に参加したメキシコのご家族の がたがた 方々は(もちろん国民性もあるでしょうが) ホームヘルプのような制度はない中でも、実 にたくましく地域で支えあいながら幸せそう に暮らしています。そのようなことを考える たと、例えば自立支援法で助成金が減ったとし ても別の可能性がいっぱいありえるのではな いでしょうか。私にとってはそのような自由 な発想を考えていく機会とやる気を与えてく れる大会でした。

11月8日 第8分科会 セルフ・アドボケート支援の実践的戦略

インクルーシヴな地域の構築

オ市障害者更生相談所 森 繁 樹

地域社会で生活する中でどのような資源があればより豊かな生活を送る事ができるのかについて、メキシコやスウェーデン、ニュージランド、イギリスと4カ国の発表がありました。報告では自分の意見を書くのはおかしい事なのでしょうが、あっちこっちにはいっていることをお断りしておきます。最初にイギリスの発表について報告したいと思います。

本人が自分の気持ちもないのか、どのように行動するだけ正確に知り、そのように行動する事がいいのか、どのように行動する事が地域で生活ないでする気にはない方式をしたのが外にはないが外に事が進まないんという。 変替した がり と と が外に 事 ない を も ま いい を き ま ないがらない も ま いい がらない ち ま す のかがらない ち ま す のかがき ま す のかがらない ち ま す のかがき ま す のかと す が進まないのか も どうがそれに対してどうが応したらいのか

からない時には問題はさらに深刻なものになってきます。例えば、公園でいろんな人たちと仲良くしたいのにみんなに怒られた。なぜだろう。私は仲良くしたいだけなのに。

交や母が亡くなった態しみ、瘤になったとしたら、などなどです。その気持ちをうまく説明するには言葉よりは、絵で伝えるメッセージの方が解りやすいのではないでしょうか。

社会を作るには、地域で理解してもらうないが大数のですが、社会の中で生活するには何が大数のかを頭ごなしに覚えさせようとするのではなくて本人が理解する事が大切で、理解があるないかを考えるためには何をしなければならないかを考えるためには何をしなければならないかを考えるかはインターネットで30数種類の表紙を見るすべて見る事ができます。2種類はすべて見る事ができるので是非覗いてみて下さい。アドレスはこちらです。

www.rcpsych.ac.uk/bbwです。

ノルウェーではNPOのアドボカシー団体が支援者についてくれます。その目的はセルフ・アドボケート、自分でしっかりと自分をでするようになることです。本人にしっかりと寄り添った支援でなければ実現にしっかりと常りないます。日本では相談支できないのではと思います。日本では相談支援を行っている人は果たして一人で何人を対しての費用は誰が負担しているのでしょうか?

地域で生活をするという事は色々な場面に 出会うという事です。時には失敗する時もあります。その時に適切な助言や援助ができるという体勢を作っておく必要があります。接 助者も個人ではなくチームであたるべきです。地域生活をより豊かにするにはまず、本

人に対する権利とそれを保証する財政的な *
がはないとできない事だと思いました。

メキシコにも32州、162団体が加入している大きな団体があります。入所施設利用でも本人が希望すれば地域社会への移行に支援者がつきます。地域生活を送ろうとする人の中にはまだ施設入所している人も多くいます。地域生活を実感したり、予測できないと地域に出ようとはしないものです。

そのためには入所中からしっかりと相談できる団体があり、どこの地域に住む事になっても同じ支援ができるように、多くの団体が加入しているという事はとても安心です。

日本でも施設から地域へと言われていますが、施設から出る事が目的ではなく、地域で本人が望む生活を送る事が大切で、自分が基本らしたい場所はどこなのかという、より基本らしたい場所はどこなのかという、より基本も対したがな問題から考える必要があるのではないでしょうか。どの地域で住むのかは、決して活動者や支援者が決める事ではないと思います。その時に十分な情報提供を本人に対して行う事は当たり前の事ですが。

11月9日 第24・34分科会

るくざっ 複雑なニーズのある人たちを支える

ー自己決定の支援と代替コミュニケーション手段の意味するところ

有 馬 靖 子 (きょうだい)

この労科会での発表者はプログラムには 5名の名前が出ていますが、実際にはカナダ 人 2名は参加せず、スウェーデン人 1名、 メキシコ人 2名の計 3名だけでした。司会 者はコスタリカのジェラルド(Gerardo)さんで、進行とメキシコ人の発表はスペイン 語でした。そのため英語のハンドアウトをも らうことができたスウェーデン人のエレイン さんの話の内容が大半を占めることをごう 承ください。

●エレインさんは 障 害者の母でもある

議論のタイトルは「高度な支援を必要とする人のよい生活条件」でした。エレインさんは重度(*)の知的障害の人たちのためのセンターでどんな活動を行うかなどを考える仕事をしていますが、36歳になる娘さんに重度重複の知的障害があるお母さんでもあります。

*英語では severe (病 状 が深刻なというニュアンス) と profound (重度) の両方の形容詞を使っていますが、日本語では単に 重度とします。

●スウェーデンはやっぱり**進んでいる**?

スウェーデンでは障害のあるなしにかかわらず、子どもはすべて家族の元で育てられます。生物学的な家族が子どもの面倒を見ることができないときは、単親が選ばれます。これはすべての子どもが家族を持つ権利を持ち、知的障害の程度にかかわらず教育の権利を持つということを意味します。

知的障害のあるおとなの人たちもよい生物にようけんで暮らす権利があります。たとえば、エレインさんの娘さんは、24時間援助者がつくアパートにひとりで12年以上住んでいます。社会保険システムからの経済的援助の下、3家族でそのアパートを運営しているそうです。

●「健常」人の役割

知的障害のあるおとなの人たちには、デイケアセンターでの毎日の活動に参加する権利もあります。重度重複障害のある人たちは多くの困難を抱えていますが、多くの可能性も持っています。その可能性を作り出すのは、間りにいる健常人がやるべきことで

す。言葉を話せない人たちが必要としていることを察知するためには、人間の感覚についての深い理解が必要不可欠です。それらは、、人間の深い理解が必要不可欠です。それらは、対点です。ない。 ない 理解が必要です。 ならに、が覚を腹ががられます。 さらに、がは覚をしている感覚です。 さらに、がありまたがは、を動かす感覚があるとは、ではならないのです。 といきないのです。 で、 たちを支援するにもないのです。 が残っていてどれを刺激してあげればよいかを考えなくてはならないのです。

●権利を守るための 闘 いは続く

最後にエレインさんがおっしゃったのは次の言葉でした。「重度の知的障害のある人たちの親であることは、娘や息子のためのよい生活条件のために常に聞い続けなければならないということです」

●インクルージョン・ヨーロッパの資 料

メキシコ人 2名の発表はスペイン語で、ほとんど内容はわかりませんでしたが、ベロニカさんの発表はコンピュータなどテクルである。 はコンピュータなどテクルの発表はコンピュータなどテクルので、でした(写真)。 私の関心事は、 言葉を話せず文字も理解できない重度の人たちのか感じて帰国しました。しかし、帰国後袖山さんが、 重度の人たちもインクルージョンの波が



メキシコ $\stackrel{\text{LL}}{h}$ のベロニカさんのパワーポイント、テクノロジーという $\stackrel{\text{LL}}{h}$ 語がある。

に取り込まなくてはならないと作成されたインクルージョン・ヨーロッパの資料を教えてくださり、私にとってはそれが今回のアカプルコ行きの最高の成果となりました。なぜなら、日本の現状はそうなっていないからです。

どういうことかと言うと、全国重症心身障害児(者)を守る会の機関誌第599号で、北浦雅子会長が「障害者基本計画に関する恐談会などで、厚労省の幹部と7団体ぐらいとで話をする機会があったが、医療もいる重症心身障害児(者)には東京としている重症心身障害児(者)には地震としている重症心身障害児(者)には地震が必要だという立場は他の団体からは理施設が必要だという立場は他の団体からは理が必要だという立場はした。これではないが必要だという立場は他の団体からは地震されず(厚労省は入所施設については真に必要なものに限定するという一文を追加)、批判が出た」と書かれているのです。

今後の日本のインクルージョン活動がヨーロッパ並みになることを期待して、私の報告を終わります。

11月9日 第25分科会 脱施設と共生社会の構築の方策

「インクルージョンはすべての人に」

はきけいがくえん おのざわ ひで と 一 一 大野澤 秀 人

メキシコ大会3目目は、脱施設分科会:
テーマ「脱施設と共生社会の構築の方策パート1」に出席しました。 今回はカナダ・ノルウェー・オーストラリアからの3つのレポートがありましたが、特に当事者のなまの声を聞けたのが、印象的でした。

カナダでは70年代後半に脱施設化の取れていますが、特に家族とセルフ・ケジ動では30年が、特に家族とセルフ・アドボケート advocates の前者が、施設が追した。 ことを強力であることを強力であることを強力であることを強力であることを強力であることを強力を地方である。 これは、 500人が施設化には活動をはは12,000人が施設であると、 200人が施設化には多くの人が施設を表した。 200人が施設化には多くの人が施設と、 2000人が施設化には多くの人が施設化には多くの人が施設と、 2000人が施設化には多くの人が施設化には多くの人が施設化には多くの人が施設化には多くの地で、 2000人が施設化には多くの地で、 2000人が施設化には多くの地で、 2000人が施設とまで、 2000人が施設と、 2000人が施設と、 2000人が施設と、 2000人が施設と、 2000人が施設と、 2000人が施設と、 2000人が応設と、 2000人が応設と、 2000人が応設と、 2000人が応設と、 2000人が応設と、 2000人が応設と、 2000人が応設と、 2000人が応設と、 2000人が応認と、 2000人が応認

カナダの目標は、2007年までには大施設

への新入所は受けない、10年までに大施設を閉鎖し、15年までに知的障害者は自分で必要な支援を選択し、地域生活へ移行できるようにするとしています。そのための具体的方策の紹介がありました。

●ノルウェーからの報告

ノルウエーでは、知的障害の施設ケアは
1990年に終了しており、その施設は今は
博物館になっているそうです。北ノルウェー
に開設された最初で最大規模の施設 Trastad
Gard の入所体験者から、当時の施設処遇の
実態をインタビューして聴き、それをビデオ
に記録したもの(2005年)が会場で上映
されました。

これは HARSTAD 大学の企画によるもので、今回は 54年~90年の間に入所していた当事者 16名に具体的な質問(入所を決めたのは誰か、食事・排泄・外出・就等・記していた。 音簡・余暇・入所後繰り返された入居寮の移動は誰が決めていたかなど)をしてのインタビューが上映されました。 自由な選択・意思決定が認められず、いつも職員の監視

の下にあって(トイレで用便中も整識かに見られていたなど)、指示に従わないと間として部屋に閉じ込められたり、凍結したか活をようない生生ながあるれたりと、自由の全くない生生な道的なれていたとのこと、正に非人が伝わっては地容施設であったことがリアルに伝わっては地容施設であったことがリアルに伝わっては地容が高いであった。しかし、今年では、ショッキングでした。しかし、今年では、ショッキングでした。しかし、今年では、北京をで募しているとのことです。

●オーストラリアからの報告

30年間の施設入所後、地域移行して自分の設定を表でアパートを借り、町で生活しているセルフ・アドボケートの意見発表。

- ・地域のネットワークが生活には大切(友達を必要としている。地域の文化的イベントに参加したのに、自治体の人はそれを重視していない、普通に社会参加ができていない)
- · 社会資源も大切
- ・特殊学校ができて、これはインクルージョ ンではない
- ・単純に地域に戻すのではダメ。ロマンチックな現実を見るのでなく、実際には摩擦は起こすことがある、彼らだけでサブカルチャーを作る事だってあるから、知的障害者へのサービスを変えていくことで、他

の苦しむ人たちを助けることができる。 後半の質疑応答では、

- ①日本からの参加者: 35 年施設入所して、5 年前に地域移行した。「施設はあった方がいいか」と聞かれるが、地域で支援があれば、どんな人でもできるんだということを体験した。施設には戻りたくない。手で触って熱い冷たいが分かるようであれば、十分で、社会の人がどれだけ受け容れてくれるかが鍵である。
- ② 中南米からの参加者からは、中南米では 5~6人で地域に住むということは難しい。社会的サポートがまだ出来上がっていないからとのことであった。
- ③当事者からの異議申立て:精神遅滞という用語は不愉快な用語で、知的障害者という用語は不愉快な用語で、知的障害者と言って欲しい⇒ノルウェー助教授:すみません、これからは気をつけますと、謝罪するせん、これからは気をつけますと、謝罪する場面あったのが印象的。時代の変遷を痛感。なばられているのだと感じました。

このように発表後の質疑応答でも、施設 入所体験者や国連のプロジェクト会議にも たんか している当事者代表の方などが積極的 に意見を述べておられ、私がよく参加する施設職員の研究協議会とは違う収穫を得ました。

11月9日 第25分科会

だっし せっか 脱施設化とインクルーシヴ・コミュニティ作りの戦略

明星大学 吉 川 かおり

この分科会では、カナダ・ノルウェー・アメリカ合衆国・オーストラリアから、脱施 せつか じょうきょう きょうせいてき ちいきしゃかいづく 設化の状況と共生的地域社会作りのために いまう ほうほう とうじょう はっぴょう いまりまり ひつよう ほうほう はっぴょう 必要な方法について発表がありました。

●カナダがめざすもの

カナダでは 1970 年代に少しずつ施設閉鎖 が始まったものの、現在7つの地方でまだ 大人の大施設が残っています。今後の方針と して、大施設だけでなく不適切な小さな施設 (ナーシングホームなど、ただ規模が小さい だけの施設)にいる人も減らしていくとのこ とです。戦略としての重要な点は、本人・ として、施設を拒絶する方法を確立していく こと。また、地域社会の成熟も重要で、自 が、 5が のとびと う い い し かん ひと 違う 人々を受け入れるのには時間がかか るが、自分達の活動を通じて少しずつ変えて いくことも必要だし、行動障害の強い人に はグループホームも難しいので、もっと個人 に特化した住み方と理解できる人を支援者と して用意することが必要というお話がありま した。

●ノルウェーの過去の記録

ノルウェーでは 1990 年に知的 障 害者の 施設はすべて閉鎖されました。以前施設があ ったところは博物館になり、施設の歴史を残 すために使われています。施設居住者の経 験や思いをきちんと残しておくために、話を た。 聞いて記録するという活動が行われていま す。面接の方法には使っている言葉の概念の サがい さん てきせつ ほうほう くふう ひつよう 違があるなど、適切な方法を工夫する必要が あったそうですが、すでに 16 人に面接を終 えたそうです。 箇接の様子を映した VTR で は、日課、余暇、食事、部屋、職員のこと などについて、楽しい思い出 (乗馬をした) なども話されていましたが、嫌だったことの ずに、職員の言うことをきかないと罰(食 まぬき、APをという。 事ぬき、APをに閉じ込められる、平手打ちさ れる)が与えられたこと、家族への電話を逐 いち 一そばで聞かれたこと、友達ができなかった こと、6人部屋だったことなども挙げられて いました。

また、福祉システムについての説明もありましたが、特に印象的だったのは、障害者はなかなか友達ネットワークが作れず、ケア

の提供者のみとコンタクトを持っていることが多く、アパートに住んでいる人のほとんどが、障害者向けイベントには行くが、地域の一般向けのイベントには行けないというお話でした。自治体も、障害者を含めて参加できるイベントをしようとは考えないのは問題だと言っていました。

●オーストラリアの経験

オーストラリアからは、encompass(包 たいての話がありました。やはり、施 を設に入っていた時に本人が体験した嫌なこと として、体罰のことが挙げられていました。 食事の時に遊んだりすると、ひざまずいて とならず、それが嫌なら、早く部屋に戻って とならず、それが嫌なら、早く部屋に戻って とならず、それが嫌なら、中く部屋に戻って とならず、それが嫌なら、トラブルを起こすとひもで手を縛られた、な どがあったそうです。

●アメリカ合 衆 国の今

アメリカ合衆国からは、Therap の活動 紹介がありました。現在、アメリカ合衆国 の 25 州で家族・NGO・州政府の機関が Therap を使っているそうです。Therap は 値別支援のためのプログラムで、WEB から

利用できるとのことです。

●貧困地域での脱施設化

以上の発表の後、質疑がありました。 だっしせっか ひっょう 脱施設化に必要なものは?という質問に対

- ①コミュニティを訓練していくことが必要。
- ②同じサービス・設備を使えるようにシステ ムを変えていくことが必要。
- ③様々な人の協力を得ること。
- ④脱施設は単なる施設閉鎖ではなく、確実な指標の一つは、友達がいるかどうかであり、友達がいるということが地域にとけこんでいるということ。

という考え方が示されました。

また、貧困地域(国)での脱施設化はありえるのか?という質問に対して、

- ①障害者がいてもいなくても家族みなが力 を出し合わないと暮らせない状況の中で も、グループホームはありえる。

という返答がありました。

11 月 9 日 第 25 ・ 40 分科会

かっこく だっしせつ ちいきせいかつ と く 各国の脱施設と地域生活への取り組み

りっきょうだいがく 立教大学 コミュニティー福祉学研究科 しゃかいふくしがくせんこうはくしかていぜんきかてい ねん なか まさ ひろ 社会福祉学専攻博士課程前期課程 2年 中 真 宏

約3時間にわたって行われたこの分科会では、脱施設について様々な国の発表を聞くことができました。以下に、発表されたない。

●カナダ

現在は7つの州に施設が残っていますが、地はすべて閉鎖されました。カナダでは、しょうがいのある人は、"ケアされる(特別に入れる)べき存在"として考えられ、施設に入れるのが一番よいとされてきました。しかし、それは間違いでした。そもそも"しょうがい"というのは、本人以外の第三者がそう呼んできたのです。施設生活は本人の人権や自由を無視し、いろいろな権利を奪ってきました。

カナダの施設閉鎖の特徴は、裁判所を通さなかったということです。法律の枠組みで進めていくのではなく、親の会が"戦って"、各州政府(3つあります)へ働きかけることによって1970年代から閉鎖が始まりました。そして、同時にコミュニティ・サービス(地域での支援)をつくっていきました。

う後の目標は、大きな施設で新たに受け

入れをしないことです。また、小さな施設にいる人は、2013年までに半分にしようという目標があります。最後に、カナダで脱施 数が成功した秘訣は次のとおりです。

- ・本人、親の積極的な参加があったこと
- ・国際機関と連携をとったこと
- ・一人ひとりの人権の問題として捉えたこと
- ・本人や家族をエキスパートとして見たこと
- ・しょうがい者だけの問題ではないと考え たこと

●ノルウェー

ノルウェーの施設は、「TRASTAD(トラスタッド)」という一番大きな施設を含めて、1995年にすべて閉鎖されました。「施設という文化を打ち破ることは難しい」という言葉を聞いたことがありますが、脱施設の推進は本人の"経験"から学ぶことが重要です。そこで、1954年から1990年まで、施設生活者16人に聞きとりを行いました(ここでその模様がビデオ上映されました)。その結果、

施設に帰りたいという人は0人でした。しかし、そのように施設生活を語ってくれる人は、高齢化によって年々減ってきています。

1994年のサラマンカ宣言では、人権のの強調、人権のの強調、差別からインクルーシヴな社会へ、コミュニティ(地域)への参加、多様性を認めるうことなどが打ち出されました。しょうがいのある人は、しばしばノンバーバル(言言いるではない方法)で何かを伝えようとしていることがあります。それは理解することが難しいもありますが、ネットワーク(人と人のつながり)があれば問題はありません。

ノルウェーでは、1969 年に特殊教育法という法律ができました。それは、特殊学 級 (しょうがいのある人だけを集めた学級)をつくるというもので、しょうがいのある人にもない人も一緒に勉強するということを実現させるものではありませんでした。このことと関連して、文化的イベント (お祭りなど)

への参加などはとても重要です。しょうがいのある人を対象としたイベントへの参加は多く見られますが、そこにとどまっていてはいけません。

インクルージョンを達成するためには、お 互いの歩み寄りが必要です。単にコミュニティに戻すということではなく、職場の人間関係など人と人とのつながりを考えることがとても大切です。

●オーストラリア

ここでは、本人が発表者として登場しました。そこでは「私は何も決めることができなかった」という言葉がありました。

●アメリカ

ここでは、「Therap (テラップ)」という
会社の紹介がありました。この会社は、コ
ミュニティ(人と人とのつながり)づくりに
インターネットを使っています。「インクル
ーシヴ・コミュニティ(いろいろな人がつな
がった社会や空間)」をつくることを助ける
と来です。すべての人に情報へのアクセス
を保障すること、例えば個人や家族を対象
に災害時の支援などを行っています。「インタースメーション・テクノロジー(情報技

いじょう かっこく はっぴょう かんたん 以上、各国の発表の簡単なまとめでした。 だっしせつ すす 脱施設が進んでいる国は、国や政府と"戦っ て"地域での生活を実現させています。また、 ったし なに き しゅちょう みみ かたむ 「私は何も決めることができなかった」とい も含めて、本人の思いや主張に耳を傾ける うオーストラリアの本人の言葉がありまし た。よって、施設を閉鎖して"当然の権利"

を勝ち取るためには、ノンバーバルな表現 ことが出発点になると感じました。

セルフ・アドボカシーの分科会での話し合いの方法

順番とながれ:

- 1. 全体をその場に即して半分にし、さらに各々10人程度の小グループに分ける。
- 2. グループ内で自己紹介をする。
- 3. グループ内で記録係を決める。
- 4. 各グループに話し合うポイントが伝えられる。
- 5. まず内容1. について各グループでひとりひとり順番に話をする。
- 6. それを各グループでまとめる。
- 7. グループの代表者として発表する人を決める。
- 8. 発表者が全体に発表する。

ルール:

- 1.会場にファシリテーター(本人1、支援者1)と進行を助ける複数の支援者が 配置される。
- 2. ながれの4番からは、一つ一つの内容について、同じ順序で繰り返す。
- 3. それぞれの話し合いの内容発表ではなるべく別の発表者を決め、より多くの人 に発言の機会がまわるようにする。

内容:

- 1. あなたの夢は何ですか。
- 2. 夢を達成するためにはどうしたらよいですか。
- 3. あなたは何をすべきですか。
- 4. 何を変えるべきですか。
- 5. 誰があなたを助けることができますか。

これはインクルージョン・ヨーロッパのセルフ・アドボケートの話し合いの方法のよ うで、会場には100人規模のセルフ・アドボケートが集まっていましたが、10人位の小 グループでの活発な話し合いのあと、次々に全体で発表が行われ、有効な話し合いの手 段であることがわかりました。

3. 会議報告: 5) 交流会報告

顔を見ながら語り合う大切さ

なか ばやし じゅう すけ

・・日本とメキシコの交流会・・

57 国、1,400 名参加という世界大会では、聞き手に回ることが主になりますが、開催国メキシコの人々と直接話し合える機会を設けてくださったことに感謝し、また期待しました。藤原理事長の挨拶のあと、日本側の本人が開催国事長がかられましたが、現地在住の司会の方は浴み変で登場、メキシコの人たちが紹介されましたが、現地在住の司会の方は浴み変で登場、メキシコの人たちの大きな拍手を受け、炭坑節の踊りを対方というでは、大きな拍手を受け、炭坑節の踊りを対方の大きな拍手を受け、炭坑節の踊りを対方の大きな拍手を受け、炭坑節の踊りを対方の大きな拍手を受け、炭坑節の踊りを対方の大きな拍手を受け、炭坑節の踊りを対方の大きな拍手を受け、炭坑節の踊りを対方の大きな拍手を受け、炭坑節の踊りを対方の大きな拍手を受け、炭坑節の踊りを対方の大きな拍手を受け、炭坑節の踊りを対方の大きな拍手を受け、炭坑節の踊りを対方の大きな拍手を受け、炭坑節の開りを対方の大きな拍手を受け、炭坑節の開りを対方の大きな拍手を受け、炭坑節の開りを対方の大きな拍手を受け、炭坑節の開りを対方の大きな拍手を受け、炭坑節の間に対方の大きが変更に包まれました。

スペイン語を解する現地の日本人二人が通常を買って出てくれたのですが、通訳しないで自分たちで喋りだす場面もあり、笑いに包まれました。

会は交互に質問しあうかたちで進められましたが、日本側からの質問に対し、われもわれもと多くの手が上がり、通訳の関係もあって時間はどんどん過ぎ去りました。

日本側からは、メキシコの作業所やグループホームの様子、また本人会の組織などについて質問がなされ、「ありはする」との回

とう 答でしたが、残念ながらくわしい事を尋ねる じゅん 時間はありませんでした。

質問を希望する手、回答を望む手が次々と ないり、積極的な対話の場となりました。

ここでも私は、かつての関取・小錦を思わせるような堂々たる体躯のメキシコ女性に 禁まれて小さくなって座っていましたが、大かりとはになっていたことを尋ねました。

「全体会場の参加者を見ても、また壇上 の司会者や発表者を見ても、多くが女性です。メキシコ女性のパワーに圧倒される感じです。

そこでお尋ねですが、あなた方の連れ合い、 まままれてすが、あなた方の連れ合い、 まままれて まままれていまり 男性の障害者問題に対



たくましいメキシコの女性たち



できる 仮装をしたメキシコ本人参加者たちと

する姿勢はどうなのでしょうか」と。

でした。 何人もの手が挙がりました。夫が弁護士という女性は、よく協力してもらえますと。 いま一人のお話が印象に残りました、

「主人は協力したいと言っています。しかし、毎朝起きるとその日の仕事探しに出かけねばなりません」と。

似たような話を後日、メキシコシティでも 動きましたが、厳しい生活の一面がうかがえ ました。

国連関係の統計では、メキシコは中所得の国として分類されています。だが、国内での貧富の格差が非常に大きいことでも有名です。

パナマ大統領美人の「貧困は差別と排除の落とし子である」という言葉が頭をよぎりました。

この会に参加したくてもできないメキシコの人たちのことを思わずにおれませんでした。 交流 会ではメキシコの本人側も大活躍で、

テコンドの妙技を披露してくれる少年、「死者の日」(日本のお盆に当たるようです)の仮装姿で顔をペインティングした若者たちの歌と、友好ムードに満ち溢れた会は、あっという間に閉会のときを迎えました。

世界大会の合間に、二カ国の会を開くのはちくの制約があるでしょうが「相互に顔を見ながら笑顔と拍手で過ごす時間が持てた」こと自体に意味があったのではないでしょうか。

藤原理事長が私の年齢を伝えたらしく、 数名のメキシコ女性に「高齢の身でよくぞメ キシコまで」と握手を求められました。

* 翌朝出会ったときに「ブエノス ディアス (おはようございます)」と先方から挨拶して くれたのもうれしい一つでした。

(人間を信じたい、信じ合いたい) という 気持ちになりました。

(追記・盗難事件の夢いメキシコと言われますが、自分の不注意で置き忘れたカメラが、メキシコ女性たちの手で無事戻ってきました)

3. 会議報告: 5) 交流会報告

こうりゅうかい 日本メキシコ交流会!

日本とメキシコの交流会をしようとには日時とは、メキシコの大会の初れに日でしたが、メキシコの大会の初初で出ていましたが、メキシコの大会の初初で出ていました。開催は翌日になりました。 で、大きにはるのかなもにはるのかなもにはなが遅れた時間が伝わっていました。 これでみんなます。 ところがメキシコの人が作るりました。 これでみんなます。 ところが、変更になりました。 これでみんなます。 ところが、交更になりました。 これでみんなます。 ところが、交更になりました。 これでみんなす。 ところが、交更になりました。 これでみんなす。 ところが、大き関係などの関権が対域が関係が対域には、メキシによります。 ところが、大き関係などの人が作ってくれた案内の紙が何箇所が対域によりがよりませた。 ありがたいことで、り出されていました。 ありがたいことで、り出されていました。 ありがたいことで、り出されていました。 ありがたいことで、り出されていました。 ありがたいことで、り出されていました。 ありがたいことで、日



なとメキシコの本人、親、家族、支援者たち









を使った職場や生活の場の紹介もありました。事前準備も万全で、すばらしい発表でした。メキシコ側からは特技のテコンドーを放露してくれた方や、皆でメキシコの有名なで、大きないまで、この会には、日本な歌を歌ってもくれました。この得意まなのは、「日本なが、方が二人協力してくれました。様々のかたが二人協力してくれました。をあたかが方が二人協力してくれました。とでも楽で手作りの会になったと思います。とても楽

しく過ごし、予定の1時間30分があっという間に過ぎてしまいました。全員の方が発言や発表、特技の披露などの表現をすることはできませんでしたが、交流会後、日本の側からもメキシコの側からも多くの方から「よかった」と言ってもらいました。こういう機会を通じて、他の国の様子を知ったり、なからう機った通じて、なか聞か増えていくのは素敵なことだと思います。

3. 会議報告: 5) 交流会報告

^{こうりゅう} 交流イベント

こくさいいくせいかいれんめい 「国際育成会連盟アジア太平洋ミーティング」報告

こくさいいくせいかいれんかい り じ ぜん にほん て いくせいかいこくさいかつどう い いんちょう 国際育成会連盟理事 全日本手をつなぐ育成会国際活動委員長なが せ おさむ 長 瀬 修

2006年11月9日(木) 午後5時半から、 世界会議に出席中のアジア太平洋の国際育 世界会議に出席中のアジア太平洋の国際育 成会連盟関係者が会合を開きました。呼びかけたのは、国際育成会連盟の理事の長瀬で す。出席したのは、日本の育成会のほか、 ニュージーランド・オーストラリア・台湾からの国際育成会連盟組織のメンバーと香港の ピープルファーストのメンバーでした。

かいごう こくぎいいくせいかいれんめい 会合では、国際育成会連盟の6つの委員 かい だいひょう いっしん つぎ すいせん 会への代表委員を次のように推薦しました。

また、会合では、以下に省略して紹介するアジア太平洋地域としての活動案に合意が 着られました。 「国際育成会連盟アジア太平洋活動計画」

- 1. 優先活動
- アジア太平洋地区の会員数拡大
- ●メーリングリストによる情報共有
- ●親の会の活性化
- ●開発と貧困削減
- ●セルフ・アドボカシーの促進
- 2. 組織上の問題

い地域別主導メンバー:北東アジア地区= にほん 日本;東南アジア地区=タイ;南アジア地区 =インド;太平洋地区=ニュージーランド;

- 3. フォローアップの活動
- ●メーリングリストによる交流
- ●以下のような会議との関連における協議
 - (a) 2006 年 11 月のメキシコ、アカプル コでの国際育成会連盟世界会議
 - (b) 2007 年 9 月の ESCAP 琵琶湖ミレニ アムフレームワークの評価会議
 - (c) 2007 年 11 月の台湾のアジア精神遅 たいかい ぎ 滞会議 (AFMR)

せ かいかい ぎ 世界会議における本人の役割の変遷

ステージ編集委員長 花 崎 三千子

世界会議にはたくさんのセルフ・アドボケート(本人)が参加していました。実際の数はわかりませんが、親や専門家など全部を合わせたより、もっと多かったように私は感じました。そのぐらいエネルギッシュで、そのぐらい重要な働きぶりだったのです。

育成会はどこの国でも親の会として出発しました。その世界会議が今どうして本人抜きでは何事も進まない、本人中心の会議になったのでしょう。

●インクルージョン・インターナショナルと ^{ほんにんかつどう} 本人活動

本人の発言は、はじめは親の会大会の「意見発表」にすぎなかったのです。しかし、そこには「人として尊敬されて生きたい」という痛切で正当な願いがこめられていました。その願いに押されるように、70年代に北欧でセルフ・アドボカシーの活動(本人活動)がスタートします。80年にはスウェーデン育成会(FUB)が本人を代議員権をもつ正会員として迎え入れ、84年にはオー

ケ・ヨハンソンさんがFUB理事に選出されます。1990年にパリで開かれた国際育成会連盟世界会議に参加した5名の日本の本会連盟世界会議に参加した5名の日本の本人が、オーケさんを中心としたセルフ・アドボケートが、自分の言葉で堂々と自分を語り、権利を主張する姿に衝撃を受け、帰国で、日本の本人活動をスタートさせたのは、やうかいはなし有名な話です。

1993年に国際育成会連盟は各国のを立ち上に国際育成会連盟は各国のを立ち上に関係を主ます。 は、 294年に事務局で構造します。 は、 34年に事務局で構造します。 は、 34年に事務局でも対して事務局を担ったのは、 194年に事務局でも対して事務局を担ったのに、 195年に「戦略計画」を作成し、 201年に「戦略計画」を作成し、 201年におりまると、 201年におりまる。 201年におりまると、 201年におりまると、 201年におりまると、 201年におりまると、 201年におりまると、 201年におりまると、 201年に対します。 201年に対しませた。 201年に対します。 201年に対します。 201年に対します。 201年に対します。 201年に対します。 201年に対します。 201年に対しませた。 201年に対しませ

4. 本人参加:1)世界会議における本人の役割

●ハーグ (1998)「自分たちこそが変革の 主役、そのために連帯しよう」

本人会議のあとに本会議を行うこのやり方は、いくつかの課題を残しました。しかし大きな収穫がありました。それは、本人会議「ともにつよく」の中で確認された「自分たちこそが変革の主役」「そのために連帯しよう」という本人たちのつよい意志です。



その意志を受けて開かれたメルボルン大会 は、プログラムの組み立てそのものに「本人 が主役」の姿勢がつらぬかれていました。毎 にき いちばんひろ てい どう じっうゃく 日、一番広くて同時通訳がつくメイン会場 は、本人活動グループの発表の舞台でした。 ニくテン
国際ピープルファースト大学の設立を熱っぽ うった く訴えるイギリスの本人、施設の完全閉鎖を ずめてデモ行進を繰り返すニュージーランド の元気な姿などなど。1時間の会議の後には 45分の休憩があり、飲み物や食べ物を手に した本人たちが、広い会場を闊歩していま した。メルボルン市ご自慢の水族館で、珍し い魚たちに囲まれてひらかれた歓迎の夕べ。 レーザー光線の中で踊りまくったディナーパ ーティー。会議全体にあふれる気取りのない おおらかな空気の中で、誰もが自分を発揮し、 ピ๒ラ ニラウ๒ラ 自由に交流していました。メルボルン大会 は、インクルーシヴ(共生)な社会のあり かた りくっ 方を理屈をこえて示しました。

大会後に開かれたII総会で、3名の本人
理事が選出されました。IIはこの時点で
理事定数を減らしたにもかかわらず、その中
に3名の本人代表を迎え入れたのです。組織としてのIIが、「本人中心」に確実に能を切ったことがわかります。2004年には本を切ったことがわかります。2004年には本を切ったことがわかります。これで
IIの5つの地域(アジア太平洋、アメリカ、アフリカ、ヨーロ

ッパ)から、地域代表理事と本人代表理事がそれぞれ1名ずつ選ばれることとなり、 はは、また。からなが、ならないでは、また、なり、はない。また、また。からけいしゃ、かんぜん、かた。なら本人は親・関係者と完全に肩を並べました。

●アカプルコ (2006) 本人 中 心から生まれる豊かな可能性を、本人が証明した

 情にまとめられ、最終日の全体総括会議に提出されました。予定にはなかったのですが、日本もこの作業に加わってほしいというかか、一次では表されると赤木祐子さんが参加しました。

塩上にずらりと並んだ各国の本人代表が、会議の全参加者の前で自分たちの経験や思いを率直に語り、IIが今後取り組むべき最近ではない。 重要課題を提言する姿は、力に満ちていました。彼らは「本人中心」から生まれる豊かな可能性を、自分たちの力で見事に証明してみせたのです。

ここに至るまでには、各国の本人活動の地域で本人活動の地域で本人活動のかさねと交流がありました。その中で本人たちは、自分で自分の権利を守ること(セルフ・アドボカシー)のすばらしさを実施し、学習を重ね、力をたくわえたのです。そしてその裏には、本人中心の価値を認め、そしてその裏には、本人でそれを応援したⅠⅠの度量の深さがありました。ⅠⅠはそのために必要な自己変革を、勇気をもってなしとげたのです。

世界的に見れば、知的障害の分野の本人をいるようには、知的障害の分野の本人をいる。しかし、そ中心はまだ一部に過ぎません。しかし、それが十分可能なこと、そして、そこから人と人との新しい関係が生まれ、インクルーシヴな社会の姿が見えてくることを、II世界が会議の歩みがはっきり示しています。

4. 本人参加: 2) 日本からの参加者の感想

メキシコ大会をおえて

東京都育成会ゆうあい会 館 森 久 秋

国際育成会連盟・第14回世界会議を、おえて私は今回の大会に出て貧困とは何か考えさせられるものがありました。

テーマ(共に生きる未来を創ろう・公平な世界をめざして)自分自身の地域で生活し、その地域に所属して参加することが、大切だと思います。

大人になっても、子供扱いされて居る。

どんな人にも、出来る事があります。自分 の身を守る教育と支援をして欲しい。 メキシコの大統領夫妻が大会にこられて、 なくしゅ 握手しました。

日本からもっていった物を展示しました。 メキシコの親の会との親睦会で、(ウェルカム・パーティー)であった人とまた会い、 日本の作業所で作った物あげました。

会議がみな終わってビーチパーティー (海岸にステージを作りました。) みんなで楽しみました。



ピラミッドの前で



セルフ・アドボカシーの分科会会場にて

メキシコ世界大会

とうきょうといくせいかい 東京都育成会 ゆうあい会 宮 本 佳津子

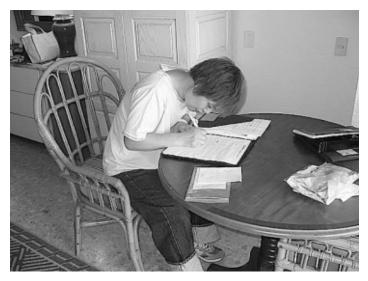
●メキシコでびっくりしたこと

メキシコ大会にさんかして私がおもったことは、日本は、会社や作業所で、はたらいたお金でほしいものがかえるけれども、メキシコは、お金をちょうだいと言って、手を出している人もなかにいました。日本にうまれてきてよかったなと思いました。

●みんなのなかまにはいれた!

メキシコのおともだちは、明るくてすぐに

なかよくなれてすごくうれしかったです。いっぱい、いっぱいおともだちがいてよかったです。すごくうれしかったです。すごくうれしかったのは、みんなのなかまに、はいれてうれしかったです。メキシコのおともだちは、すごく気持ちがやさしくてあかるくてすごくうれしかったです。メキシコ大会にさんかしてよかったと思いました。メキシコのおともだちのおかげでいっぱいおもいでができました。おともだちってありがたいです。



舞日部屋に戻って思ったことを諾したあと忘れないように書く宮本さん

4. 本人参加: 2) 日本からの参加者の感想

メキシコ世界大会に参加して

しゃかいふくしほうじん むぎ こかい みつ つか ゆう た社会福祉法人 麦の子会 三 塚 勇 太

今年の11月6日から12日まで、国際育 tuかいれんめい 成会連盟メキシコ・アカプルコ大会に古家統

メキシコは当然初めてだったので、なるべ く迷惑をかけないように心がけながら空港に 向かいました。

メキシコまでは道のりが遠く飛行機を片道 で4回乗り換えながら行く事になり、アカ プルコまで丸一日以上かかりようやく到着 しました。

フラミンゴなどがほとんど野放しでホテル内 にいました。まず自分の部屋に着いたとき、

ホテルはとても広く、オウムやクジャク、 地の人にメキシコ人と間違えられました。



ホテルの庭に放し飼いにされている色鮮やかなフラミンゴ

キュテッシ 想像したより広くとても驚きました。そして ー緒の部屋に泊まった松泉学園の施設の光 #す 増さんがホテルについてや大会の流れなど を、いろいろ親切に教えてくれました。

2 目目は、アカプルコ額光に出かけました。 初めは銀を使った装飾品を作る工場へ行 き、お土産に銀のネックレスと革の財布を大 ワょゥ 。。。 量に買いました。そして革の帽子も買い早 ^{そくかが っぽ ぱしょ む} 速被り次の場所へ向かいました。

ぽうし かぶ じょうたい まち すこ ある げん 帽子を被った状態で街を少し歩くと、現

その後、死のダイビングという、メキシコ では恒例のものがあり、崖の上にあるマリア



。 会場前のロビーでテンガロンハットをかぶっている三塚さん 現地メキシコ人とまちがわれたこともありました



パーティー会場での楽しいひととき

 の野宮さんの息子さんとも神良くなれました。夜、交流会が始まりこの時のために練習した英語でスピーチをしようとしましたが、日本語でよかったため苦家敦子さんに訳してもらい、練習が無駄に終わりましたが、スピーチ自体はしっかり自分の言いたい事を伝えられ、とてもいい大会でした。

大会が終わった後、また飛行機に乗りメキシコシティーに向かいました。アカプルコと比べてとても現代的な情でした。 苦い有名な 時でしたのできないです。教をしたりと、始めるがでいる。 ない時でした。 特に前を観光で楽しみました。特に前を記れてといい。 できないないである。 できないない。 アカプルのピラミッドに登れた。 でも、月のピラミッドと太太陽のピラミッドがありメキシコシティーの酸素が薄く、とても楽しかったが登りがいがあり、とても楽しかったです。

1週間という短い期間でしたが、学ぶ事がとても多く、大変貴重な体験でした。

4. 本人参加: 2) 日本からの参加者の感想

ハプニング続出の8日間

4年に一度の世界会議は11月7日~10 1004日間、ラテンの国、メキシコのアカプルコで開催されました。57ヶ国から的1,400人が参加、北海道グループ11名は飛行機を4つ乗り換え、機上18時間、更に30分の専用バスで会場となっている超豪サリゾートホテル「フェアモント・アカプルコ・プリンセス」に到着しました。

繁内された部屋は営を呑むほど美しいオーシャンビューでしたが、ベッドがダブルベッドで、営予と一緒?に休むことになってしまいました。

こんたいかいちゅう 今大会中で、心に残っている言葉は、メ キシコ大統領の「皆さんこそ社会を変える げんどうりょく 原動力です」、パナマ大統領の「障害児の なが、家族として差別・排斥と戦うこと、権利擁護の行動が重要です」、同大統領夫人の「多くの人が極貧の中にいます。社会の正義は届いていません」などです。

今回始めて参加した息子は、間じ北海道からの参加の三塚さんとお友達になることができ、最近はしばしば彼のお勤め先であるスワン・ベーカリーによって、パンを買ってきています。また、東京から参加の本人の方に、「君は考えが甘いよ」と言われ、帰国後、急に人権セミナーへの参加を決めたりと、いろいろな刺激を受けたようです。

ハプニング連続の8日間でしたが、4年後のドイツ大会にも是非行きたいとの息子の感想を追記しておきます。



分科会でのグループ討議



が 皆でホテルからシャトルバスに乗ってレストランへ

ポスターセッションでの本人参加

とうきょうと ちてきしょうがいしゃいくせいかい たか はし かおり東京都知的障害者育成会 髙 橋 香

今回で4回目の参加となる世界会議。。あまり馴染みのないメキシコという遠い国での意動が開催ということもあり東京が私自身は初めのかが方は6名でした。私が自身はおかったいどのような流れになるのか・・一で安を抱きながら説明会を始めまかがら、繁張のが時方だった私をよそに参加が方が、かりで余裕しゃく。今時さんは海外も世界会議も馴れているがあかりで余裕しゃく。今時さんは海外も世界会議も馴れているがかかりで余裕しゃく。今時さんは海外も世界会議も何かやりたい・・

説明会の帰り道、駅までの道程で出てきた声でした。「アカプルコは暑いの?夏なら浴衣で盆踊りもおもしろいね」「みんなで歌を歌うのは?」「楽しいことやりたいね」そんない話で盛り上がりました。

結局全員で集まる機会があまりもてないということで、一人一人で出来ることを考え、 自分の思いを自分の言葉で世界の仲間に伝えることをテーマにポスターセッションでの参加を試みることにしました。東京都育成会



カクテルパーティーでメキシコのみなさんと。気さくに声をかけてくださいました

4. 本人参加: 2) 日本からの参加者の感想



てん じ ちゅう しまづ 展示中の嶋津さん (このあと転んで大惨事)

からの参加メンバーのほかにも空音本のSさん、Kさんにもご参加いただき、それぞれの今の生活の紹介、将来の夢、世界の仲間へのメッセージを出してもらいました。そして一番いい顔での写真も。出来上がったものは「手作り感があふれすぎる(?)ポスターでしたが、メキシコでのお披露目がちょっと楽しみな出来栄えになりました。



でんじと ちゅう 展示途中のポスターの前で、期待にわくわく



ひとりひとりの写真とコメントをポスターに



日本からの発表ブース

とが楽しいと皆さんの顔つきで感じることができました。



アカプルコ最後の朝、それぞれの思いを胸に、いい笑顔

あると認識しています。常にご本人の声に昇 がたむを傾け、誰もが変らない生活を営めることの 重要さを改めて感じた大会でした。

てんじ ちゅう 展示中、アメリカからの参加者が私たち のポスターをじっとみつめ「ナイスプレゼン テーション!」と声をかけてくれました。そ のことを伝えた時、次回はもっと多くの人に 見てもらえるよう準備して頑張りましょう という声もあがりましたし、本当に良かった という思いがこみあげました。成田で解散の 時「また4年後、ドイツに一緒に行きまし ょう!」とSさんが笑顔で声をかけてくれま したがその時は疲れた顔で「そうですね・・」 を生返事をしていた私です。しかし時間がた つにつれ、また皆さんと参加したい、次回は もっといい発表ができるようにしたいと小 さな意欲が湧いてまいりました。今、職場 の机の上にはアカプルコで撮ったみなさんの まいこう えがお しゃしん かざ 最高の笑顔の写真が飾られています。

下宿屋からの4人での体験記

しゃかいふく しほうじんしょうなんふく し ばしゅくゃ かわ せ えつ 社会福祉法人 湘南福祉センター 下宿屋 川 瀬 悦

、じぜんじゅん び **≪事前 準 備≫**

下宿屋で世界大学ののないのは、電子では、一番望光がられたのは、電子で世界大学ののない。 一番望着が上がった。 一番望者が上がった。 一番望者が上がった。 一番望者が上がった。 一番望者が上がった。 一番では、 一番

出発の朝、精味さんが「ブエノスディアス」と挨拶。行くことのプレッシャーでなかなか、その挨拶が今まで出せなかった増藤さんであるが、出発の朝は違った。小様ではないを覚がった。「カルボッドではない、美顔で「おはよう」と挨拶を交わした。7時に下宿屋を出た。皆がわざいが見送ってもらったことに感激して、なれた。見送ってもらったことに感激して、なが出までの間、そのことばかりに感銘を受けていた米田さん。

*** 成田に到着、皆さんが着くのを待つ。… 出発!!

≪4人の確認作業①≫

大会会議中に、Aさんから「うちら(4人)、 で大会会議中に、Aさんから「うちら(4人)、 日々、何を自分たちが得たのか、感じたのか いまれる。 話そうよ」と提案があった。さっそく、夜に へをで反省会(確認作業)を行った。それぞれが印象に残ったことを報告しあった。

たまますび 作業日①:11月7日 夜 『感激の確認』



日本のインフォメーション・センター

とにした。「それは戦争だね」と。世界でもまだ戦争がある。血が流れるのに、お金が飛んでいく。それで学校に行けなくなる場合もある。みんなが通えるような社会がいい。C
さんの感想から色々なことに広がった。

他にも、日本の義務教育、海外の人との ちっしかな 仲間との平等とは何だろう、日本 の平等って何だろうといった話題があがっ た。

今日の反省会では、自分たちの感じたことの表現をする大切さも確認しあった。出発がためら、4人で議題になっていた、「自分の意方の表現するのか(人へ報告する方とをどう表現するのか(人へ報告する方法や気持ち)を学ぼう」を行えた日であった。そして、明日からは、自分の表現方法であった。そして、明日からは、行動しない、自分だけのであるために、別々の行動をとることをがかった。



下宿屋のメンバー

ref 業日②:11月8日 夜 『もう眠い』

ース(今日から3日間、資料が展示される) にいた者、インフォメーション (全日本育成 がい もの かいぎ き もの もの 会) にいた者、会議を聞いていた者、それぞ れが自分の行きたい場所にいた。今夜の反省 かい かくにんさぎょう 会(確認作業)では、それぞれがいた場所で があったか、何を得たのか報告しあった。 ゕ゚゛゙゙゙゙゙゙ 会議に出ていたAさんとBさんは、聞いた ことを、一生懸命思い出して、報告しあった。 … A さんと B さんが会議で聞いた言葉を 言い合って、思い出したこと(言葉)…貧困 (貧乏)。家族から見捨てられた子ども。倉庫 に入れられた子ども、話せない子どもは人間 じゃない。死亡率。エイズがある。一日1ド ル以下の生活。誰からも排除の状態。80カ こく しょうがいしゃ しゃしん 国の障害者の写真。

ひとつだけの会議にしか出なかった C さんは、出なかったことに後ろめたさがあるよ

4. 本人参加: 2) 日本からの参加者の感想

うで、なかなか言葉が出なかった。しかし、なぜそれ(出なかったこと)を選択したのか問われ、答えを皆に伝えた。Cさんは、Aさんに「いいことだったんじゃないのかな」と言われ、にこやかに一日を振りかえっていた。

そんななか、この空音間、酸激を光いに酸素しているDさんは、何も言わない、と思ったら、ウトウトしていた。「Dさん、このではなの言いだしっぺじゃん」と言われながら、少し、攻められ、「発した言葉の自己責任ですね」と…かっこよく言うが……、そう言っただけのようで、すぐにウトウト…。「オレ、ただけのようで、すぐにウトウト…。「オレ、なら議寝てたから、分からない」「オレ、環坊しました」「私も眠い」と4人とも、にい…。

4人は、優等生をめざし、夜の会合を企画 したが、ここはメキシコ…のんびりいこうと いった気持ちの様子の4人であった。

その他、話したこと…

がかかい にほん 分科会で日本の「ステージ」の報告があっ た。わかりやすかった。

でで、メキシコの人と交流した。賑やかだった。日本から持っていった梅干をあげたら、辛そうだった。

通訳が早くて聞き取るのが大変だった。 はくまいた 白米が食べたい。

自分たちが感じたこと何でもいいから話をしよう。

お金はないけど、必ず必要なことが人には ある。それって「愛だ」って話があった。愛 がないから排除があるって。

日本の人が、「車椅子のメキシコ人にバイキングの食事をよそっていた。言葉は通じないけど、そういう助けるのって偉いと思った。僕もそういうことをしたいと思った。

朝食バイキングで、食べ物を多くとったはいいが、食べられずに、この国のことを がかが、考えて反省した。



マーティンと



確認作業中

≪4人のちょこっとエピソードのいくつか≫

行きの機内で、ウキウキの嬉しい足跡のよ うにスチュワーデスに名刺配り。時差ぼけの せいか、コーヒーに塩を入れる。カードキー を何度も部屋に入れたままでオートロック。 ゕぃぇ゙ รゅう 会議中のウトウト。ホテルの海にラクダが いた。メキシコ交流会で自分の土産が人気 で、本来のものでないものも欲しがられ、

プレゼント。突然、ホテルの従業員が部屋 たまうしょっけん すに来て、朝食券を捨てられそうになった。 深夜に、臓いのに、バーに行き、現地の人た ちと踊りまくる。興奮して鼻血。レストラン のピアノで演奏。会議で、貧困について話を まで、まうぞう こうはん かんこう ちぃき 聞いて、想像していたが、後半の観光地域で、 ものご 物乞いが居たので貧しさを実感した。



ピラミッド観光

A A PRAGA A REDACTA A REDACTA A REDACTA A REDACTA.

使い方:参加者	プラスティック製・10cm×10cmの正方形)の配布と活用 は、1枚を選んで手に持ち、発表者に見えるように見せることで、 ニケーションをする。
赤カード	話す人が、難しい言葉を使った時。 赤いカードを出されたら話す人は、より優しい言葉を探したり、 本人が支援者から説明する時間を持てるように、発現を少しの 間控えるようにする。
黄カード	早口でついていけない時。 話す人はスピードを落として話すことになる。
緑カード	その話に同意できる、よく理解できる時。 緑のカードを出されたら、話す人はうれしい。ほかの人が見習 うことができる。

4. 本人参加: 2) 日本からの参加者の感想

^{かんそうぶん} **≪感想文≫**

「ボタンと風呂敷の違い」

日本はボタンのようにちっぽけな考え方である。ちょっとしたことにこだわりすぎる。外の国は、風呂敷である。スケールが大きい。「オラ(挨拶語)」と皆が挨拶をする。それは、親しみから沸く言葉なのか、僧しみから沸く言葉なのか。ここで出会った人たちは、皆親しみを感じる。日本では、僕が倒れていても、誰かに伝えるだけで、見つけた本人が僕を助けようとしない。

「メキシコに行って」

ではがや ひで たか 一長谷 英 高

*教育について…、教育はみんな受ける権利があります。*教育を受けないと社会のことがわからないから。予ども達が大きくなった時に困るから。日本では、予どもが1人~2人くらいなので、みんな教育を受けることができますが、外国では、予どもが多いので1人くらいしか教育を受けることができません。本当に可哀想だと思っています。資困について…、資困を撲滅です。排除は差別です。49%の人が栄養不良です。栄養不良で亡くなった人がたくさんいます。あらゆる排除をなくす。パナマの人が、11.3%もいる。仕事ができる権利がない。そうすると貧しい生活が続く。生活をするお釜が少ない。仕事も少ないので、生活も大変な自が続く。平和について…、戦争や争いがないことが平和だと思っています。戦争なんかなかったら、世界の人がみんなが幸せだと思います。平和に暮らすことができます。戦争なんかあったら、毎日そのことでおびえて、大変な毎日を過ごすことになります。観光…、メキシコシティで、ピラミット遺跡を見に行きました。ピラミットでは、質上まで登りました。サボテンがたくさんありました。多常方はレストランで、夕飯を食べながら、ダンスを見て、とても楽しい日でした。今回の国際育成会建盟メキシコ大会に参加してみて、よかったと思っています。4年後のベルリン大会にも参加したいと思っています。

「メキシコの報告」

ます とう じゅん 雑

自分は、今回、世界大会に行きました。大会では、ハイジーさんの話で、暴力・虐待を受けて、教会に18年間通った話を聞いて、自分も施設の頃を思い出しました。午後に、本人の会に参加して自分は発言しました。療育手帳の話をし質問し、メキシコにも手帳があると知りました。手帳があることでどこまで援助があるのかなと思いました。8自は貧困の話がありました。色々な国が貧しいとの話が出ました。貧しいけど明るい人が多かったです。それから、人権の話もありました。7自から9自まで日本ブースがあり、そこで高知県の人と知り合いになりました。分科会での日本の発表のステージの話と、さをりの会の発表も印象的でした。9自の夜はメキシコと日本の交流会をしました。日本から持ってきたお土産をメキシコの人にあげれて、増しかったです。10自と11自はメキシコシティーに観光しました。財布をすられたりするそうで、治安が悪かったです。12自は、朝3時に起き、帰国の準備でした。まだ、眠かったです。13日に、帰国し、「やっと日本に帰れた」と嬉しかったです。

≪ 4 人のびんぼう体験≫

帰国後に、数日間の旅について、4人で確認した。それは、4人とも「貧困」であったことである。

一日目の夜の会合以降、別行動にしたのは、いつも一緒の顔ぶれじゃ、成長しないだろうし、自分たちの表現を自分で作るためにしようということで、提案されたことでもあるが、行くことのプレッシャーや、集団でいるからで着に行動することに縛られる、縛られるから、イライラしてしまうこともあるのではないか、という意見もあったからである。

Aさんは、帰国後、普段の生活に戻り、「あの時は、普段と違う環境に行き、普段の体質と違う環境に行き、普段のなかない。 中間との会話に疑問を感じていたことが分かった」と言った。メキシコでは、「貧しい状

4. 本人参加: 2) 日本からの参加者の感想

メキシコで織りつながった ゅぅこぅ 友好とさをりの思い

NPO 法人さをりひろば 城 まどか

**たしたち 私達さをりひろばからは、本人達による なっぴょう 発表とさをりワークショップを行いました。

さをりとは1968年創始者の城みさをが57歳の時大阪で、障害のあるなしに関係なく、一人一人の感性を織り込む現代の手織りとして生まれました。全国に10万人以上の愛好者がいて、一般の人と障害のある人が共享がある。 これでいます。 障害のある人にとっての社会との交流の場にもなっています。

●さをり織り企業 組合についての発表 とファッションショー・パフォーマンス

本人発表ではまず、さをり織り企業に組合なる の藤原香さん・瀬尾美雪さんが自分達の活動について発表しました。現在さをり大阪のスタッフとして働いている藤原香さんと、さをり大阪の適塾でさをりました。すないの。さをり大阪の適塾でさをりたれたちの他、全人員で9名のメンバーで『さをり織りをなる。 ないます。私だは主にさをり織りをないます。私だは主にさをり織りたっています。私だは主にさをり、それをペンケースやポーチなどの小物に しています。そしてその商品を作品展などで販売しています。その他にも、大学や専門学校にさをり講師として学生達に指導しています」と話し、さをり織企業組合のペンケースなどの商品や、自分達が織った6mほどの反物のさをり作品を見せました。作品を見せたときは観客から拍手が起こりました。

その後、伊藤仁絵さん、新田めいみさんがさをりファッションショー・パフォーマンスを披露しました。伊藤仁絵さん、新田めいみさんは、一般の人と言葉でのコミュニケーシーをが難しいのですが、彼女をは自分が難しいのですが、彼女をは自分によないる服を堂々と観客に見せ、立派なパフォーマンスを行いました。彼女達のパフォーマンスが観客を感動させ、カメラを持ったながたくさん舞台の背に集まり、彼女をすんたちがたくさん舞台の写真を撮っていました。

その後、城みさをの講演の映像を流しました。「一般社会ではいわゆるキズものだと思われている作品を、私は模様だと思い、そして、よしそれならとそのキズをもっとたくさん作り、自分の美意識を持って織り上げた。それがさをりの始まりであった。一人一人の



さをり体験ワークショップで、メキシコの人たちにさをり は まままゆき 指導をする瀬尾美雪さん (中央)

●大好 評 ! さをり体験ワークショップ

さをりワークショップでは「教えこむのではなく、引き出していく」という今までとはまった。 達ったく 逆の発想であるさをりの指導方法を実践していきました。 藤原香さん、瀬尾美雪さん、伊藤仁絵さん、新田めいみさんたちが主となって、体験に来た人たちに接していきま



した。ふと見ると、瀬尾美雪さんは、言葉は 通じていないのに何かが現地の人たちに伝わ っていて、彼らに抜群のサポートを行ってい ました。

インクルージョン世界大会に参加し、さをりを通じて国や人種は違っても、言葉以上に理解しあうことができ、楽しい交流ができたことはこれからもずっと心に残っていくでしょう。そしてこの先も活動を続けていき、交流をはかっていきたいと思います。

5. 参加者の声

すす ほんにん い し かくにん そんちょう さらに進む本人意思の確認と尊重

した。はったつぎょうかい じょう むりじ (社)発達協会 常務理事 はんごちょうかく し せいしん ほけんふくし し 清 聴覚士/精神保健福祉士 湯 汲 英 史

●内戦 状態イラクからの参加も

2006年11月7日から10日まで、メキシコのアカプルコで、第14回国際育成会連盟大会が開催されました。家族や本人が集う、当時に一度の世界大会です。筆者は、第12回のハーグ大会、第13回のメルボルン大会に続き、三回目の参加となりました。

アカプルコ大会の参加国は六十国弱、参加者は千七百名余、イラクからの参加者は千七百名余、イラクからの参加者という。 内戦 おあることがアナウンスされました。 内戦 お起こ からの参加に、 会場から拍手が起こりました。 喜びの拍手もそうですが、世界大会にはどこか家族のような暖かさがあります。 知的障害を持つ人々を持つ家族によった。 知的障害を持つ人々を持つ家族い共感があるからでしょう。

●さらに増えるか、本人参加

今回参加の、日本からの団体ツアーですが、 50名条のうち 20名を越える人たちが本人でした。本人が4割を占めたツアーは、初めてだったのではないかと思います。その本人ですが、家族と一緒だけではありません。自分たちで支援者を雇い、ガイドヘルプさせ ている人たちがいました。こうかかかな行も夢ではありません。飛行機の中で思ったのは、じっとが大人になってかかで思ったのは、じっとが大人になっなかで思ったのは、「大人になっなかで思ったり」とです。まずは大き人にないられて、トイレさえ自立していれば、東アということです。まずに大き人にないが、大き人になった。大き人になったのはことばです。メキン語圏で、ホテルのはことばです。メキン語圏で、ホテルのはことばです。メキン語圏で、ホテルのはことばです。メカン語圏で、ホテルのはことがでもは、本学ので、ホテルのはことがであったりしました。一方では近くたちは、家外となかったりしました。一方では近くかわからない。一方では近くかわからない。一方では近くかわからない。一方では近くかわからない。参加者によったりしました。

● 兄 弟姉妹のシンポジウム

メキシコはラテン民族ですが、その傾向なのでしょう、ホテルのロビーでは夜遅くまで変いが、 またはなど、またいのロビーでは夜遅くまで歌い踊る本人たちの姿がありました。 その光景に違和感がないのが何とも愉快でした。各シンポジウムでは、本人が発言する場面がしばしば見られました。育成会大会は、本人のための会議になってきているのは確かです。

今回は特に、兄弟姉妹のシンポジウムが 別かれました。日本からも複数の方々が参加



かいぎだいいちにちめのあさしょくじ会議第一日目の朝の食事

され、活発な発言が会場の注目を集めました。

メキシコは、9割を越える人たちがカソリック信徒だそうです。それもあってか、障害を持つ兄弟姉妹を、「受容する」ことが強調されていました。個人の心のありようが語られていたといえます。一方で、日本のシップストは兄弟姉妹の苦悩とともに、社が会的支援の必要性を訴えていました。そのはなりなりときといる。

●親善・交流で盛り上がる

今回の大会で、日本人の参加者が最も盛り かで、日本人の参加者が最も盛り を上がったのは、日本とメキシコの本人、家族 との交流会です。全日本手をつなぐ育成会 の藤原理事長が「日本のパパ」として挨拶 され、また本人どうしの意見交流もありま した。日本語とスペイン語という言葉の違い を越えての熱い交流会、企画された委員の かたがた かんしゃ 方々に感謝いたします。

●日本でも進む本人参加

アカプルコ大会では、ハーグ、メルボルン 大会についで、さらに本人意見の重視、意 思の尊重が確認されました。

●平和を求めるもう一つの世界

アカプルコのホテルのテレビには、イラクやパレスチナでの紛争、核兵器のニュースが繰り返し流れていました。大会では、戦争も核兵器の話もありません。そこには、人間がありました。そのことを心強く思った4日間でもありました。

5. 参加者の声

メキシコ大会エピソード集

まょうだい しまい かい はやし こう ぞう 兄弟姉妹の会 林 浩 三

●エピソード 1 : どきどきでした、チューナー交換

今回のメキシコ国際会議は世界的にも有名と後で観光都市アカプルコでの開催でした。途神アメリカのダラスとメキシコシティでそれぞれ飛行機を乗り換えたわけですが、私の場合、自宅を出てからアカプルコのホテルまでは実に25時間を要しました。時差も15時間ということでホテルに着いたときには野然と出てきました。今となってはその日果たしてぐっすり眠れたのかどうかよく覚えてません。

製品からいよいよ世界会議の始まりです。 国際会議ということもあり会場であるチャンネルチューナーを借りるのですが、これがまた。 では、日本語を聞くことができるチャンネルチューナーを借りるのですが、これがまた。 では、自分の大いチューナーを借りるのですが、これがまた。 では自分の大いチューナーを借りるシステムでは自分の大いで一端でいるのです。これは各分科会毎回回になっているのです。これは日本が会話でした。 でもっているのです。これは日本が会毎回回になっているのです。これだけ受信チューナーをが変さない人が多いとでもいうのでしょうか?

日本ではそんなに貴重な機器に見えないの です。どうひいき首に見てもそのチューナー はこきたない古びたラジオといった感じでし た。とにかく、少しの不安、いや、すごく不 gc かか ながら (頼むからカードはなくさな いでくれよと願いながら)、クレジットカー ドとチャンネルチューナーを交換し会場へ 入りました。セレモニーが終わりすぐカード を遊しにもらいにいったのはもちろんのこと でしたが、やはり毎回カードを預けるたびに ☆ またい ままん ま 完全に不安が消えることはありませんでし た。今回育成会の事務局をやっていただい た袖山さんからは「まだパスポートを取られ るよりはいいでしょう」と言われる然とした ものでした。そんな人もいるんだ、かわいそ うに。その人はどれだけ不安だったことでし ょうか?パスポートに何かあったら日本に帰 れなくなっちゃうではないですか、来場者 の中にはきっとカードなんて類けられないと wかった。ひと 怒り出す人もいるのではないかと思わず想像 を膨らませてしまいました。でも預けないと 日本語が聞けない訳です。感覚・考え方の違 いといいますか、とにかくこのことなどは自

本では考えられないエピソードです。

●エピソード 2:開会セレモニー&オ だいかつやく バちゃん大活躍

せかいかい ぎかいまく 今回のメキシコ世界会議開幕セレモニーに は世界 57 国から 1,400 人以上の人たちが ^{テム ゥ} 参加しました。その中にはアカプルコ市 長 やゲレロ州の州知事(アカプルコが所属し ています)はもちろんのこと、メキシコ大統 りょう っぱい 領ご夫妻やパナマ大統領ご夫妻等、それこ tu s s s j th そ政府要人 (VIP) もご出席されていま す。それだけに警備も厳重で物々しく、参 かしゃ ぜんいんかいじょうい ぐち きんぞくたん ち 加者は全員会場入り口で金属探知ゲート (空港にあるようなもの) をくぐらされまし た。会場はそれぞれの通路に警備員が立ち、 しかもその通路はパイプ式のバリケードで仕 切られており、トイレに行くにも彼ら警備員 のチェックを受けました。参加者が席につい た後、最後にメキシコ大統領 夫妻、パナマ だいとうりょう ふさい にゅうじょう ちゃくせき 大統領夫妻が入場し着席しました。私達 が着席した席は大統領夫妻が帰りに通る通 る 路のすぐ近くの席でした。実際私の左側に メキシコ人らしきご婦人が二人ほど座ってお り、その向こう側が通路という位置関係でし た。

そして事件はそのセレモニーでおきました。開幕セレモニーの途中、受信チューナーの日本語が突然聞こえなくなったのです。私は受信チューナーを振ったり叩いたりしてみましたが、やはり聞こえません。すると

_{あたし ひだりどなりに ぽんめ} すゎ 私の左 隣 二番目に座っていたご婦人?おば ちゃんがそれを見ていて突然近くに立ってい る警備員を捕まえ(警備員は要人警護のため に見張っているのであって、決してそういう ことのために立っているのではないのです が…)「おいお前、日本人が受信チューナー が聞こえないといっているぞ。何とかしろ」 とまるでもめているかのように強く言ってく れたのです。もちろん言われた方の警備員は ニュţ 困った顔をしていました。そうこうしている うちに受信チューナーが回復し、日本語が聞 こえ出しました。するとそのおばちゃん「お っ、大丈夫だ。聞こえるぞ」と私に合図を が、 送ってくれました。私も指でOKと合図して サンキューとお礼を言いました。私は残念な がらスペイン語がわかりません。そのときそ のおばちゃんがなんと言っていたのか正確な ところはわかりませんが、親切なおばちゃん は世界のどの国に行ってもいるものなんだな と感じました。

おばちゃんの親切はそれだけで終わりませんでした。メキシコ・パナマ両大統領美妻のとき再びそれはやって来ましたが両ご夫妻ともそのおばも書きましたが両ご夫妻ともそのおばって退場の通路を通って退場ともなると、でして大統領の通路はこれ以上が近づけないほどの人でそこの通路はこれ以上が近づけないほどのでそこの通路はこれ以上が近がかったのでそこを通って退場するメキシコ大統領で夫妻と幸運にも握手することがで大統領ご夫妻と幸運にも握手することがで

5. 参加者の声

きました(メキシコ大統領夫人とは握手できませんでしたが)。

ところが私より右側に座っていた大阪から 来た森さんは人ごみで近づくことができずにいました。その時です。あのおばちゃんが通 り過ぎた大統領を呼びとめてくれ(どう見ても大統領の知り合いには見えないのですが)さらに森さんに向かって「ジャポネ、ジャポネ」と手招きしてくれたのです。おかげで森さんもきちんとメキシコ大統領となったができました。全くこのおばちゃんの大活躍のおかげです。

そのとき感じました。おばちゃんは世界 中どこへ行っても強いと...。

●エピソード 3 : 時間通りに始まりません

被が言うには「だいたいそうなんですよ。それでもたまにバスなんか時間通りに出発するものだから油断できないんです」とのことでした。

それでも人間、私も本来怠け者だからでし ょう。3日もいるとそんなペースに慣れてき て、セッションの開始時間がきてもまだいい やと少し遅れていくようになりました。3 円 ッ 目のお昼からのセッションの時です。アメリ カで個別教育プログラム(IEP)の勉強 をしてきた確かDPIのグループだったと思 いますが遅れて参加してきました。昼食が 一緒になり、彼らはセッションの開始時間1 時 30 分が近づくと「そろそろ行かなくちゃ」 とそそくさとレストランを出て行きました。 ゎたし もり 私と森さん(大阪から参加)はそれを尻目に 「ぼくらはこれを食べてから行きます」と ®タ 食事を取りました。きっとメキシコに ţ 住んだらすぐ順応するだろうな、そう思い ました。15分ほどでしょうか、遅れて参加 しました。それでもきちんと最初から参加す ることができたのです。

そんなメキシコの何と言ったらいいでしょうか、そう "おおらかさ、のようなものは *** 私達日本人が忘れかけていたものを思い出させてくれます。毎日毎日時間に追われ、 はなかにも他人にも口うるさく規則・決まりなどを押し付けてはいないでしょうか?特にはないでしょうか?特にはでする私達にはこのおおらかさは特にで大事なような気がします。知的障害者の行

動障害はある意味周囲の関係者のおおらか さのなさが作り出していると言えるからです。

●エピソード 4:二枚の参加 証 明書

でした。そんなことで新しく出来上がってきたのでした。そんなことで新しく出来上がってきた証書と併せ、私は2枚の証書を持ち帰ることとなりました。考えてみれば、確かにメキシコの人たちから見れば『HAYASHI』と『KOZO』は、どちらが苗字でどちらが名前だか、わかりづらいんですよね、きっと。

●エピソード 5 : 参加記念品 二個いただきました

世界会議へ参加登録した際、麻のバックと メモ用紙、ファイル等がセットになっている ッ゚゚ネムスぴん 記念品をもらえるのですが、疲れてソファー に座ってしまいもらい忘れてしまいました。 それに気づいたのが3目目です。それも大 ^{きか もり} 仮の森さんと東京の寺本さんが同じような 蘇 麻のバックを持っていたのを見て、また二人 で俺に内緒でお揃いのものを買ったと思い込 んで「どこで買ったん?」と大阪弁でふてく されたように聞いて発覚したのです。2人と も今頃何言ってるの?とあ然とした顔をして いました。さらに同室の武藤さんは「えー (かなり大きな声) 林さんもらわなかったん ですか」とかなりあきれ顔。それでも翌日大 からなった。 会本部に掛け合ってくれ、翌日にも言ってく れ、つまり合計二回掛け合ってくれたのです が、最終日に違う人がそれぞれ違うときに 記念品をそれぞれワンセットずつ持って来て くれました。

いろいろな形でいろいろな方たちにご迷惑をかけ、私は参加記念品をニセット持ち帰ってきました。

インフォメーションセンターの機能

せんにほんて いくせいかいじょきょく そで やま けい こ 全日本手をつなぐ育成会事務局 袖 山 啓 子

●大会開催までと大会申し込み

第14回国際育成会連盟世界会議メキシコ大会は、2006年4月以降、徐々にその全容が明らかになってきました。しかしなかなか詳離な情報を得ることができず、童に宣言が一週間ほどになってから入って来たプログラムに関しても何度も変更が入るという状況で、大きな期待をもちつつも、のんびりそしてあわただしい半年間でした。

この間、全国の皆様に呼びかけを行い、総 勢 74名、うち本人 23 名の参加者がメキシ たいかい コ大会に登録しました。

●事前の準備と発表者申し込み

 でようしゃせんこう かか すいせんぶん ざくせいとう まこな 表者選考に関わる推薦文の作成等を行いま した。

●インフォメーションセンター設置・ ^{3んない} 運営

メキシコ大会事務局とは、事前にメールでのやり取りを行い、インフォメーションセンターのための机と椅子の予約、最終的には現地にて場所の確保を行い、大会期間中は通訳イヤフォンセットの配布・回収、世界会議短信、ニュースの発行・配布、大会プログラム等の変更のお知らせ等の周知を行いました。

●交流会企画・開催

が成田からは3つの飛行機(国内線を利用の人は4つ)を乗り継いで遠くメキシコまで移動するのですから、大会に参加するだけでなく、現地の親の会との交流会を開催した。ようということで、メキシコ育成会にの所E)との交流会を企画しました。当日の開催までは紆余曲折がありましたが、11が18日には総勢150名ほどの参加者が、階

だんじょう ざせき 段状の座席のある劇場タイプの会場に集 い、交流しました。

翌9日には国際育成会連盟アジア太平洋 地区のミーティングも開催し、近隣地域における連携について模索しました。

さらに、10日には国際育成会連盟会長との朝食会を開催し、全日本手をつなぐ育成が ままうしょくかい かいさい 全日本手をつなぐ育成 かい り じょう きんか とうぎ おこな 会からは理事等が参加し、討議を行いました。

●本人参加とその支援

11月7日のプレ会議の本人会議において
10人程度のスモールグループに分かれて、
程語し合いを行い、それを順次発表していく
というワークショップが行われました。ここで多くの日本人本人が次々を発表していく
で多くの日本人本人が次次を記した。大会最大ないのがは発表である。大会事務局から、大学を見た大会事務局のグループに発表が登録表する決議文作成のグループの発行機の
とびまりする見た大会事務局とした。
で変しいとの要請を受けました。飛行で機のの時間の都合上、大会プラス観光のBコースに対しているのが、大会参加のみのAコースを対ればならず、大会参加のみのAコース参加の本人にこの大役をおり、「大会参加のみのAコース参加の本人にこの大役をおり、「表しいとの関稿の作成を支援しました。本人発表のための原稿の作成を支援しました。本人発表のための原稿の作成を支援しました。

かいぎつうやく

ぜんにほんて 全日本手をつなぐ育成会では事前の発表



をからでく これがした じょうほうこうかん 中国からの参加者と情報交換 世紀れつみぎ ちゅうごくち てきしょうがいしゃれんめい りじ 前列右は中国知的障害者連盟の理事 こうれつひとり りゅ 後列 左から 2 人目はそのお嬢さんでスペシャルオリンピックスの選手です

者原稿等の送付、現地における大会諸資料
の周知を行い、通訳環境の整備に努めました。大会本部では午前中の全体会と午後の
がかかられた。大会本部では午前中の全体会と午後が分科会 1 会場に同時通訳を、また全日本でのが行成会が1分科会場に同時通訳を、また全日本でをつなぐ育成会が1分科会場に同時通訳をしました。さらにプレ会議の本人分科会でもワークショップの発表者の支援を含めた通訳を行いました。

●その他

今回の会議への参加が叶わなかった皆様への参加が叶わなかった皆様への情報発信として、日本財団の公益団体向けのブログを利用させていただき、会議の様子を更新しました。

大会終了後は、参加者に報告書への執筆 大会終了後は、参加者に報告書への執筆を依頼し、皆様のご協力により本報告書をまとめることができました。

せんにほんて いくせいかい じょうむ り じ まつ とも りょう 全日本手をつなぐ育成会 常務理事 松 友 了

たいます。 では、 はいます。 では、 はいます。 では、 はいます。 では、 ないます。 ないまで、 全国的に歴史の日々を暮らすかと思いまで、 全国的に歴史である。 しんでいるでいる。 しから、 世界大会へ向けた想いと大会で受けた感動、 確認した決意は、 何ら変わりません。 じ動、 確認した決意は、 何ら変わりません。 じゅうが過ぎ行く中で、 さらに膨らんでいきます。

●世界大会の思い出

戦後の障害者の関わりにおいて、国際育成 対したいで、国際育成 がいれんめい (連盟) はそびえる山脈のように偉大 なものがあります。それは、連盟が第2次世界大戦中の暴虐の歴史に驚き、深い反省から出発したからです。ヒットラーが率いるナチス・ドイツは、計画的に障害者を集団で きゃくぎゃく たい できる ままり 、それが戦後の裁判で明らかになったのです。

生命を守り、人権を守ることが、連盟の出発点でした。わが国でも定着した「ノーマライゼーション」の理念は、デンマークで生まれスウェーデンで発展したものですが、それは対けからうとうの中で誕生し、育まれたものでした。そして、この姿勢はその後も一貫しています。

連盟の最大の事業が、4年に1度の世界会 意識であり、私はかなり以前からぜひ参加した いと願っていました。それは、出席される方 が著名な専門家であり、当事者による体験に 基づく報告を耳にすることが出来なかったか らです。違和感がぬぐえなかったのです。

1990年の第10回大会(フランス・パリ) たき ながねん ねが かな かな の時に、長年の願いが叶いました。その時、わ が国から初めて5人の知的障害のある本人が きんか なうえん こころ ひ しょんしゃ どうこう 参加し、その応援を心に秘めた支援者が同行 しました。これが、その後のわが国の育成会 タムヒタラ 運動はもちろん、政府の施策を変えたのです。 その後は、不幸にしてペスト渦で断念した インド・ニューデリー大会(11 回)を除き、 すべての会議に本人諸氏を中心に、主催国に ついで多い参加者をもって参加してきまし た。ご支援いただいたすべての方々・団体に、 この場をお借りして心から御礼申し上げます。 この間、わが国の育成会運動は、世界の動 きを視野において進めてくることが出来まし た。まだ十分に「連携して」とまではいえま せんが、それを意識できるようになって来ま した。特に、アジア太平洋地区の交流が、具

体的に始まりました。後は、数点の動きに間じ視点と方向を期待します。世界会議への政府関係者の参加がないことが気になりますが、次のドイツ・ベルリン大会への課題としたいと思います。

●メキシコ大会の意義

世界会議が中南米で開催されるのは、第9 1986年)のブラジル・リオデジャネイロ大会以来のことです。今回は、文字通り中代によるは、そうりょくを挙げて支援していました。それは、メキシコが国連で障害者権利条約をである。共に行動する姿と同様です。

ラテン特有のおおらかさに、事務局は翻弄されましたが、大会の内容は報告の通り、今回も刺激的なものでした。また、積極的にわが国からも発表を行ったことは、まさに歴史的な快挙とさえいえるでしょう。それがまた、世界の仲間との交通に繋がったことを嬉しく思います。

世界の育成会運動そのものが高い問題意識を持っているのかも知れませんが、今回の大会のテーマはじつに次元の高いものでした。それは、貧困問題を視野に入れたものであり、権利を基盤にしたものでした。それを、世界であな規模でどのように対応するか、というものです。

世界会議の開催された時は、国連の障害者 世界会議の開催された時は、国連の障害者 はよりじょうやく あん 権利条約(案)が、特別委員会で採択され た直後でした。12月の総会での正式採択へ で向けて、まさに高揚していたといえるでしょう。そしてこの条約は、メキシコ政府が提案し、連盟も成立へ向けて奮闘していました。

わが国では、千葉県において、「障害者差別禁止条例」が可決・成立した直後でした。そしてこの条例も、育成会の仲間が中心になり、進めてきたものです。期せずして、国ないがにおいて、人の尊厳を守るための本質的な取り組みが進行し、成就したのです。

貧困との闘いは、国連の目標であり、連盟 も各地区でセミナー等の取り組みを行っております。現在のわが国では、「格差」とか「ワーキング・プア」という言葉で話題になりますが、発展途上国においては深刻な問題です。わが国の障害者においても、大きな問題であります。

私たちはこの問題にもっと関心を払い、取り組む必要があります。その意味では、今大会の議論は、大きな刺激と参考になったといえるでしょう。障害者自立支援法での不毛な対立を超えて、本質的な議論と行動を行う必要があります。

次回は、久しぶりに欧州へ戻ります。欧州連合の中心地になったベルリンの地で、私たちは呪われた過去をどのように乗り越えられたかを検証します。その総括のプロセスが、権利擁護の確立の試みであると考えます。その思いを込め、参加への準備に入りたいと
もいます。

せかい ほんにん はな ま けっか 世界の本人による話し合いの結果がまとめられ最終日に発表されました

インクルーシヴな未来を創る 行動をおこすための世界的な計画に向けて積み重ねていくべき5つの積み木

- 1. 自己決定の権利と完全なる市民権
- 2. インクルーシヴなサービスの利用
- 3. 地域社会での生活と参加
- 4. 適切な収入と雇用
- 5. 家族へのサポート

1. 自己決定の権利と完全なる市民権

- ■蔑称はやめて!私たちは人間です
- ■社会の態度を変えよう
- ■私たちに能力があることを人々はもっと知るべきある
- ■私たちの権利を認めて、それを皆が尊重してほしい。
- ■私たちの問題について、どこででも私たち自身が話すようエンパワーしてほしい
- ■すべてのレベルにおいて協力し合っていく
- ■日々の仕事の中でセフル・アドボカシーと権利について話す
- ■人権が尊重されることを確認する
- ■簡単に読める資料等の開発、普及をさせる
- ■セルフ・アドボケートとなるよう訓練する

2. インクルーシヴなサービスの利用

- ■みんな、同じ学校に通うべきである
- ■社会はわかりやすい情報を提供しなければならない
- ■私たちが働けるようになるための職業訓練が必要
- ■健康な生活を送るための支援
- ■完全な市民権を得るための社会的サポートの必要
- ■市民社会と政府の協力の促進
- ■インクルージョンの法律制定の必要性
- ■良い実践例の共有
- ■インクルージョン教育実践のための教師育成の支援
- ■組合や他の関係組織とともに陳情する

すべての入居施設を壊そう、そして本当の生活を始めよう

- 3. 地域社会での生活と参加
- ■私たちが地域にすむためのテストなどはあるべきでない
- ■誰とどこに住むか選ぶ権利
- ■私たち自身がサービスを監督する
- ■完全参加に向けての支援の提供
- ■皆と同じように意思決定ができるように援助する







BUILDING AN INCLUSIVE FUTURE Towards a global agenda for action

"BUILDING BLOCKS"

- 1. Rights to self-determination and full citizenship
- 2. Access inclusive services
- 3. Live and participate in the community
- 4. Adequate income and employment
- 5. Support for families

1. RIGHT TO SELF-DETERMINATION AND FULL CITIZENSHIP

- * No more names, we are persons first
- * Change the attitude of society
- * People should know that we have abilities
- * Acknowledge our rights and make everybody respect them
- * To be empowered to speak for ourselves, everywhere, on our own issues
- * Work in partnership at all levels
- * Talk about rights and self-advocacy in our daily work
- * Make sure that human rights are respected
- * Develop and disseminate plain language materials
- * Train people to be self-advocates

2. ACCESS TO INCLUSIVE SERVICES

- * Everybody should go to the same school
- * Society must provide accessible information
- * Need for training making us eligible for work
- * Support for healthy living
- * Need for social support to get full citizenship
- * Promote partnership of civil society and government
- * Need for inclusive legislation
- * Share models of excellence and good practice
- * Support training of teachers for inclusive practice
- * Lobby with unions and other relevant organizations

Smash all institutions and start living in reality. 3. LIVE AND PARTICIPATE IN THE COMMUNITY

- * There should be no test for us to live in the community
- * The right to choose where to live and with whom
- * We control the services ourselves
- * Provide support to fully participate
- * Support to assist in decision making. Just like you do.

大会決議の資料

- 世界中の入所施設は閉鎖されるべきである。 せかいじゅう にゅうしょし せつ へいさ
- ■政策を審査し、インクルージョンを提唱する
- ■父母による組織は強化され支援されなければならない
- ■政府の協議事項に障害のある人の権利を組み入れる
- ■司法における公平な権利を保障する
- ■利用しやすさはすべての都市計画の必要 条 件に含まれるべきである

働く権利は人間の基本的な権利だ

4. 適切な収入と雇用

- ■私たちの労働は価値のあるものである
- ■他の人たちと同じ労働条件であるべきで、必要なら合理的な配慮がなされるべきである
- ■私たちのニーズに合った適切な支援
- ■私たちも楽しい有益な仕事をえらびたい
- ■労働は私たちに喜びと友達を運んでくれる
- ■適切な収入を保障する最も良い方法は雇用である
- ■所得補助によって、障害ゆえの汚名をきせられたり、不利な立場に追いやられないようにする
- 充分な職業訓練を提供する
- ■労働法が障害のある人とその家族を差別しないように保障する
- ■解放されたインクルーシヴな労働市場で就労定数を上回るようにする

5. 家族へのサポート

- ■私たちの家族は支援を必要としています
- ■私たちの家族とは兄弟姉妹も含んでいます
- ■彼らは他の人たちに、私たちの障害について教えることができる
- ■家族が貧困にあえぐということは私たちが貧困にあえぐことを意味する
- ■貧困について話すことをやめる時期がきた。もう貧困を永遠に終わりにしよう
- ■トレーニングプログラムの必要性
- しまうほう な きゅう にんしきこうじょう もくてき しまん つく ■情報普及と認識向上を目的とした支援ネットワークを作る
- ■すべての段階において変えることができる力は家族にある。関係当局はそれに従うのみである
- ■家族と専門家の協働は必要不可欠である

をいずの声を聞く 地域の声を聞く 地域と世界をつなげる インクルージョン政策の促進に努める しんてん は しまくひょう さだ 進展に向けて目標を定める より大きな連合としてのリーダーシップを提供する

(翻訳 佐藤 智大)



- * Institutions throughout the world must be closed
- * Audit public policies and advocate for inclusion
- * Parents' organizations must be strengthened and supported
- * Mainstream the rights of people with disabilities within governments agendas
- * Ensure equal rights to justice
- * Accessibility should be part of all city planning requirements

The right to work is a basic human right.

4. ADEQUATE INCOME AND EMPLOYMENT

- * Our work is valuable
- * Similar work conditions to other people with adjustments if necessary.
- * Appropriate support which meet our needs
- * We want to choose work that is interesting and useful
- * Work means friends and brings us pleasure
- * Best way to ensure adequate income is paid employment
- * Ensure income support is non-stigmatized and non-penalized
- * Provide adequate vocational training
- * Ensure labour laws don't discriminate against people with disability or their families
- * Move beyond quotas for employment to an open and inclusive labour market

5. SUPPORT FOR FAMILIES

- * Our families need support
- * Our families include our brothers and sisters
- * They can educate others about our disability
- * When our family lives in poverty, we live in poverty
- * It is time to stop talking about poverty we must end it forever
- * Need for training programs
- * Create support networks that disseminate information and raise awareness
- * The power to bring changes at all levels lies within the family.

Authorities only follow.

- * Collaboration between family members and professionals is essential Looking across the five building blocks,
 - we know we can be strong when we are
- * Listening to local voices
- * Linking the local and the global
- * Promoting inclusive public policy
- * Setting targets for progress
- * Providing leadership as part of wider alliances

メキシコ大会会場において収集した資料のリスト

- Peter's New Home, Sheila Hollins and Deborah Hutchinson illustrated by Beth Webb St. George's Mental Health Library ISBN 1874439 01 X
- GOING TO COURT Sheila Hollins with Valerie Sinason and Julie Boniface illustrated by Beth Webb The Sovereign Series St. George's Mental Health Library ISBN 1 874439 08 7
- You're under Arrest Sheila Hollins, Isabel Clare and Glynis Murphy, illustrated by Beth Webb Gaskell Press/St. George's Hospital Medical School LONDON ISBN 1-901242-01-3
- GOINGO TO THE DOCTOR Sheila Hollins, Jane Bernal and Matthew Gregory illustrated by Beth Webb St. George's Mental Health Library LONDON ISBN 1874439 13 3



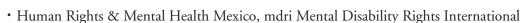


Integracion Educativa La integracion educative en el aula regular Principios, finalidades y estrategias

- Integraci On Educativa La integracion educative en el aula regular. Principios, finalidades y estrategias, Secretaria de education publica, Fondo Misto de Cooperacion, Tecnica y Científica, Mexico-Espana
- Hola esta es unestra escuela, education inclusive, Ricardo Silveira y Rosangela Berman-Bieler,
 Departamento de Desarrollo Humano, Region de America Latina del Banco Mundial
- · Boletin SOS, SOS-KINDERDORF International, Dos decadas despues, Brasil-Afrontar retos y progresar
- Guidance on the difference between mental health problems and intellectual disabilities, Developed in the framework of the European project "mainstreaming Mental Disability Policies"., Inclusion Europe, Open Society Institute, Supported by the European Commission, ISBN 2-87460-073-3
- The work of the United Nations, Inclusion Europe, ISBN 2-930415-93-2
- · What is the European Union? Inclusion Europe
- Inclusion Europe, The European Association of Societies of Persons with Intellectual Disability and their Families, Inclusion Europe
- · Europe in Action, Citizens' Rights for All, Inclusion Europe
- Las personas con discapacidad intellectual pueden decidir por si mismas, Inclusion Europe



- · ECCL, European Coalition for Community Living
- Nordland Research Institute, Research on Disabled People's Living Conditions in Norway
- · People First of Canada
- Institution Watch, Summer 2006, Volume 2, No.1, People First of Canada, Canadian Association for Community Living
- · Canada's Community Inclusion Initiative 2006, Canadian Association for Community Living
- Tha National Community InclusionInitiative, -Transforming Communities-, Discussion Paper, Draft, July 2004
- · Annual Report 2005, Inclusion Europe
- Programa Nacional de fortalecimiento de la educacion especial y de la integracion edicativa, Educacion Contigo ew possible, Mexico
- In Control, MENCAP
- Viewpoint, The learning disability magazine published by Mencap, Jan/Feb 2006
- Atrevete, a ponerte en mi lugar, Asociacion Nicaraguense para la Integracion Comunitaria



- · Human Rights & Mental Health in Peru, mdri, Mental Disability Rights International
- We All Belong, Yellowknife Association for Community Living
- · CENTRO CONFE, vol.19, num.2, otono/autumn2006
- · Sweden-Suecia, TO choose
- The Grunden Organisation, Sweden
- The world's forgotten people, mdri, Mental Disability Rights
 International
- Strategy for NFU's work for international solidarity, 2006 and beyond, nfu, Norsk Forbund for Utviklingshemmede, The Norwegin Association for Persons with Developmental Disabilities, Oslo, 2005
- Inclusion is more than 9 to3, VHS or DVD, University of Saskatchewan







にっぽんざいだん ちてきしょうがいしゃかいがいけんしゅう じぎょう 日本財団 知的障害者海外研修サポート事業

たい かいこくさいいくせいかいれんめい せ かいかい ぎ 第 14 回国際育成会連盟世界会議メキシコ大会

ともに生きる未来を創ろう! --- 公平な世界をめざして ---

はっこう び 発行日: 2007年3月19日

はっこうじょ しゃかいふく しほうじんぜん にほんて 発行所:社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会

〒 105-0003 東京都港区西新橋 2 — 16 — 1

でん か 電話: 03 (3431) 0668 FAX: 03 (3578) 6935

שויה שיא שיא פיליני 郵便振替: 00130 - 5 - 116

E メールアドレス: ikuseikai@pop06.odn.ne.jp

ホームページ URL : http://www1.odn.ne.jp/ikuseikai

表紙デザイン:石原 雅彦

第14回国際育成会連盟世界会議メキシコ大会



ともに生きる 未来を削ろう!

― 公平な世界をめざして ―



XIV Congreso Mundial de Inclusión Internacional 7 al 10 de noviembre, 2006 Acapulco, México



